平成27年度

京都三大学
教養教育共同化科目
受講案内

京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences

京都工芸繊維大学　京都府立大学　京都府立医科大学

学生のみなさんへ

京都三大学教養教育研究・推進機構

はじめに

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は平成26年度より、それぞれの教育理念を基本にしながら京都北山地域の特性を生かして共同することによって、飛躍的に充実した教養教育プログラムを実施することにしました。これは、これまで10年来、3大学が連携して教育や研究を充実・強化するために進めてきた検討を踏まえ、京都府と文部科学省の支援を得て実現することになったものです。

共同化する教養（リベラル・アーツ）教育では、科目群を拡充して選択の幅を広げ、学生のみなさんの多様な関心・学修要求に応えるように工夫しています。学生のみなさんには、様々な角度から総合的に物事を観察し的確に判断できる力や人としての豊かな感性を培うよう求めます。また、共同化によって専門や将来の志望の異なる学生同士や教員との交流を図ることができる条件を勉学や学生生活に活かし、下鴨・北山地域における新しい学生のライフスタイル、大学像が構築されることを期待しています。

Ⅰ．目指すもの

我が国の大学における教養教育は、戦後新制大学の発足以来一貫して、専門教育と並ぶ不可欠のものとして位置づけられてきました。しかしその在り方、システムや評価は時代によって変化し、社会からの要請や学生の受け止め方によって、ときには充実が求められ、また一方では形骸化を指摘されることもありました。現在の私たちは、経済のグローバル化による産業の空洞化、経済・社会の不透明・不安定化、少子高齢化、災害の巨大化、将来のエネルギー問題など様々の課題に直面し、ときには閉塞感を抱くこともあります。このような今の時代に、社会からは、眼前の利害や身の周りの空気のみで判断・行動するのでなく、主体的に考え行動し、多様な人々と連携・協同する豊かな感受性と高い倫理観を身につけることが求められています。私たちがとりくむ教養教育は、学生の皆さんが、高度な専門知識だけではなく学術の幅広い基礎的素養と科学的に思考する力を修得し、それらを基礎にして、文化や立場を異にする様々な人々と対話し議論する力や、書き、表現する力を育むことを目指します。

このような認識を踏まえ、京都三大学の共同化教養教育においては、第一に、時代が求める教養教育の課題を以下の3点に整理し、各授業科目に反映させます。

A. 人文・社会・自然諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てること。

現代社会を生きていく市民として、諸科学の基礎的知識を幅広く修得することが求められる。大学受験に偏重した教育等の影響による修得知識の偏りを改善することも望まれる。しかし、限られた時間で修得できる知識は多くない。諸学問体系のそれぞれがもつ特有の視点に接することによって、関心・好奇心を醸成する。

B. 世界の人々の多様な生き方を感受し、人としての豊かな感性や倫理観を拡張すること。

世界の多様な地域における人々の生活、歴史の様々な時代における人々の経験や思想など、社会における人の生き方、感じ方に触れ、それらを自己に投影することによって自らの生き方を思考し省察しながら、豊かな人間性と倫理観を培う。歴史、社会、文化、芸術等を通して、人としての価値を考察し形成する。

C. 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟すること。
日々生起する諸問題の多くは、必ずしも解が単一ではない。立場、経験、志向などの異なる多様な者が解を求め、何が正しく何が真実か、何を目指すべきかなどを議論し解決に向かう試みを通して、読み書き等のスキルを研鑽しながら、批判的検討や討論を遂行する力を養い、人とかかわるコミュニケーション力の向上を図る。

第二として、このような基本的な目的に加えて、京都三大学としての特徴を活かした教育を実現します。

1．共同化科目の各教室では、将来の専門分野が異なる京都三大学の学生が混在して受講することによって、学修歴や志向の違いを越えた多面的な視点による学修や討論を実現します。また、上記課題Cに狙いをおいた少人数の「リベラルアーツ・ゼミナール」を設けます。

2．伝統文化、芸術、街づくり、市民生活、地場産業やさらに自然環境など、京都に歴史的に生きている諸財産やその現代における展開をとりあげ、京都という地の特色を諸側面から学びます。そして、この地域のなりわいの理解を通して、これからの地域・街・生活・文化のあるべき姿を検討します。

Ⅱ．実施の方針

京都三大学の共同化教養教育を運営していく組織として「京都三大学教養教育研究・推進機構」が設置されています。本機構のもとで、3大学それぞれから共同化に相応しい授業科目が提供され、また機構独自で工夫された特色ある科目が提供されます。これらの科目はすべて3大学の正規の授業科目として学生の自主的な選択に供されます。

提供される授業科目は、それぞれ上記の目的に沿って、**A．幅広い基礎的知識の修得、B．多様な人間世界の事象に触れ人々の生き方を感受し思考する、C．真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する**、の3つの性格があり、各授業が主としてどの性格をもつものかを示して、学生のみなさんの履修に供されます。みなさんには人文・社会・自然の3分野と共に、これらの性格で分けられた科目をバランスよく履修することが望まれます。そこではまた、これまでの学修歴による修得知識の偏りや狭さを改善することも期待されます。

教養教育のカリキュラム、授業のテーマ、内容や方法は固定的なものではなく、学修状況や授業の成果、みなさんからの要望等によって、常に改善・開発を図っていくものです。このため「機構」には「リベラルアーツセンター」と「教育ＩＲセンター」の二つのセンターを設置し、カリキュラム等の改善・開発や学修の質評価等に係る調査・検討に取り組みます。これらの検討は、専ら教員の側のみで行うものではなく、みなさんの積極的な参加・協力が望まれます。学生のみなさんと教職員の協働によって、新しい豊かな学修フィールドの形成を図っていきます。

３大学の学長から学生のみなさんへ

21世紀の知識基盤社会が求める人材

京都工芸繊維大学 学長　古山 正雄

平成26年度に完成した教養教育共同化施設「稲盛記念会館」において、京都にある文系・理工学系・医学系の異なる個性の３大学の学生が、同じ授業を受講できるようになりました。この国立大学と公立大学が協働してカリキュラムの多様性と柔軟性を広げる試みは全国的にも初めてのもので、我が国はもとより世界に貢献しうる、まさに21世紀の知識基盤社会が求める人材を育成できるものと確信しています。

現代社会は、大量消費社会がもたらした資源の枯渇、地球的規模の環境悪化、経済社会のグローバル化と不均等発展など深刻な諸問題に直面しています。一方、日本国内においても急速に進む少子高齢化、格差の拡大などを背景として、私たちは様々な社会問題を抱えています。

このような状況下において大学は、すべての学生に自らが専攻する専門分野とは別に人文・社会・自然にわたる幅広く普遍的な知を学習させ、倫理観や歴史観、国際的な視野を持たせる責務があります。

このことから本学では、人間形成に必要な教養を涵養し、科学技術と人間性との調和・融合を図ることができる広い視野と感性を備えた高度専門技術者を育成するための教育を実施してきました。今後も地域コミュニティの中核的存在として、様々な課題を解決することができる人材を輩出することが求められており、それに応える教育を実施していきます。

何よりも人間であること

京都府立大学　学長　築山　崇

多くのみなさんが今、早く専門分野の世界に触れたいという思いの中にいるのではないでしょうか。将来の進路も見据えて、専門的な志向をしっかり持つことは、必要なことであり、大切なことです。

しかし、大学は、専門教育の場にとどまりません。日本の近代化にも大きな影響を与えた、イギリスの哲学者ジョン・スチュアート・ミルは、「人間は、弁護士、医師、商人、製造業者である以前に、何よりも人間なのです」と述べて、「専門分野の技術的知識に光を当て正しい方向に導く一般教養（general culture）」の重要性を強調しています。

一方「21 世紀に期待される教養」は、「現代世界が経験している諸変化の特性を理解し、突きつけられている問題や課題について考え探究し、それらの問題や課題の解明・解決に取り組んでいくことのできる知性・智恵・実践的能力」であると言われています（日本学術会議の提言　2010年）。しかし、そこでも「人間であること」が根本において問われていることに、変わりはありません。

3大学の共同化で実現した、科目と学び方の多様性を活かして、互いの人間性を磨き、21世紀の展望をきり拓く確かな力を培っていってください。

人間性豊かな医療人になるために

京都府立医科大学 学長　吉川 敏一

教養教育は、人類が築き上げてきた知の体系を学ぶと同時に自己を確立する課程です。このような大きな目標は大学の教養教育の期間だけで達成できるものではなく、一生の全期間を通じて努力すべきものであり、今後の人生の基盤になるものです。

医学、看護学は純然たる自然科学のみではなく、人文科学、社会科学の要素を多分に含んでおり、不断の努力により幅広く深い教養を身につけるということは、患者さんの悩みや痛みがわかる人間性豊かな医療人となるためにとても大切なことです。

平成26年度から京都三大学教養教育共同化が本格的にスタートしたことにより、受講科目の選択肢が増加しましたので、学生のみなさんの多様な関心と教育要望に一層応えられるようになったと思います。

豊富なカリキュラムの中から基盤的な学力をバランスよく身に付けていただくことはもちろんですが、３大学の学生が同じ場所・同じ時間に講義を受け、異なる専攻分野の学生との交流を深めることや、開かれたキャンパスにおいて多くの府民とふれあうことなどを通じて、他者を理解するコミュニケーション能力などもしっかりと身に付けて、それぞれの専門分野に向かって大きく羽ばたいていただきたいと考えています。

学生のみなさんへ
３大学の学長から学生のみなさんへ

目次 …… 1

共同化科目の履修について …… 2
（授業日・開講場所・休講基準等）

平成27年度 共同化科目一覧 …… 3

平成27年度 授業科目の履修定員 …… 4
（前期・後期・集中開講）

各科目概要 …… 6

３大学連携教養教育単位互換科目について …… 21

平成27年度 ３大学連携教養教育単位互換科目一覧 …… 22

キャンパスガイド …… 23

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」の概要 …… 26

平成27年度 共同化科目開講時間割 …… 28

共同化科目の履修について

共同化科目とは

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の各大学が教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目としている科目群です。

1　単　位

共同化科目は、各大学の正規科目であり、修得した場合の単位は、各大学の規定に則り付与されます。

2　授業日

下表のとおり、原則として**月曜日午後に開講**されます。月曜日が休祭日に伴う他の曜日への振替もありますので、注意してください。前後期とも最終週が試験日になります。

前期	平成２７年 ４月：13日、20日、27日 ５月：11日、18日、25日 ６月：１日、８日、15日、22日、29日 ７月：６日、13日、**21日（火）**、27日 ８月：３日（試験日）	後期	９月：28日 10月：５日、**15日（木）**、19日、26日 11月：２日、９日、16日、30日 12月：７日、14日、21日 平成２８年 １月：18日、25日 ２月：１日、８日（試験日）

3　授業時間

月曜日午後の３つの時限（コース）に行われます。（各授業科目の開講時限（コース）は、巻末の時間割を参照のこと。）

時　限（コース）	3	4	5
時　間	１２：５０ ～ １４：２０	１４：３０ ～ １６：００	１６：１０ ～ １７：４０

4　開講場所について

共同化科目は、原則として府立大学下鴨キャンパス敷地内の**教養教育共同化施設「稲盛記念会館」にて開講**されます。

5　履修の手続き

４～５頁の「平成27年度 授業科目の履修定員」などを参照の上、各大学において必要な履修登録の手続きを行ってください。

6　試　験

定期試験は、上記２に掲げた「試験日」に、それぞれ授業の時間割どおり実施します。試験に関して必要なことは、試験の前に別途お知らせします。

7　休講基準

共同化科目の授業について、暴風警報等が発令された場合など次のいずれかの一に該当する場合は授業を休講とします。

①京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令された場合
②京都市営バス及び地下鉄が全面停止の場合
③ＪＲ西日本(京都駅発着の在来線)、阪急電鉄（梅田－河原町間)、京阪電鉄（淀屋橋又は中之島－出町柳間）及び近鉄（西大寺－京都間）の４交通機関のうち３以上の運行が停止の場合

警報の解除又は交通機関の運行再開（以下「解除等」という。）に伴う授業の取扱いは次のとおりです。

①午前６時30分までに解除等となった場合…平常どおり授業を実施
②午前10時30分までに解除等となった場合…午後の授業を実施

休講及び授業実施のお知らせは、各大学からそれぞれの連絡方法によりお知らせします。

上記の基準は、共同化科目に適用されるものであり、各大学で開講される授業の休講基準は、大学ごとに異なる点がありますので、各大学の基準に従ってください。

平成27年度 共同化科目一覧

科目群		科目名	担当教員	開講期	授業目的区分 A	B	C
人間と文化（22科目）	人間と歴史	哲学	工・伊藤	後	○	○	
		比較宗教学	工・若見	前		○	
		宗教と文化	医・田中	後	○	○	
		日本史	工・鬼頭	前	○		
		東西文化交流史	工・オーガスティン	後	○	○	○
		アジアの歴史と文化	府・向井	前	○	○	
	文化・芸術	ラテン語	医・松本	後	○	○	
		西洋文化論	工・山下太	後	○		○
		日本文学Ⅰ	医・早川	前	○		
		日本文学Ⅱ	医・早川	後	○		
		日本近現代文学	工・高木	前	○	○	
		西洋文学論	工・山下大	前		○	
		文芸創作論	医・藤田	後		○	
		美と芸術	工・三木順	前	○	○	
	京都学	京都の歴史Ⅰ	府・樋木ほか	前	○	○	
		京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	後	○	○	
		京都の文学Ⅰ	府・藤原	前	○	○	
		京都の文学Ⅱ	府・藤原	後	○	○	
		京の意匠	工・並木	後	○	○	○
		英語で京都（※3回生以上）	機構・金澤	後		◎	○
	リベラルアーツ・ゼミナール	リベラルアーツ・ゼミナールⅥ（現代イスラーム世界の文化と社会）	機構・田村	集中・冬		◎	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅦ（感性の実践哲学）	機構・桑子	集中・夏		○	○
人間と社会（28科目）	社会科学の基礎	人文地理学Ⅰ	医・阿部	前	○	○	
		人文地理学Ⅱ	医・阿部	後	○	○	
		社会学Ⅰ	府・玉井	前	○	○	○
		社会学Ⅱ	府・玉井	後	○	○	○
		政治学	工・竹本	後	○		○
		国際政治	府・依田	後	◎	○	○
		経済学入門	工・人見	後	○		
		文化社会学	工・工藤	後	○		○
	人間と社会	現代の政治	府・依田	前	◎		○
		現代日本と経済	府・熊澤	前	◎		○
		生活と経済	府・小沢	後	○		○
		公共哲学	工・小久見	前		○	○
		心理学	工・大谷	前	◎		
		発達心理学	医・小川	集中・夏	○	○	
		現代社会と心	府・石田	後	○		○
		現代社会とジェンダー	府・小沢ほか	前		◎	○
		人権教育	工・杉本	後	○		○
		現代教育論	工・塩屋	前		○	○
	京都学	京都学事始―近代京都と三大学―	機構・宗田ほか	前			○
		京の産業技術史	工・山田	前		○	
		現代京都論	府・宗田	前		○	
		医史学	医・八木	前	◎	○	
	リベラルアーツ・ゼミナール	リベラルアーツ・ゼミナールⅠ（感覚で探る問題解決の方法）	機構・藤井	前・後		○	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅡ（現代社会に学ぶ問う力・書く力）	機構・児玉	前		○	◎
		リベラルアーツ・ゼミナールⅢ（社会科学の学び方）	機構・児玉	後		◎	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅣ（現代社会と映画製作）	機構・長坂	集中・夏		◎	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅤ（アメリカと中国はいま）	機構・脇田	集中・冬		○	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅨ（経営哲学）（※2回生以上）	機構・児玉	後	◎		○
人間と自然（24科目）	自然科学の基礎	物理学Ⅰ	府・春山	前	○		
		エネルギー科学	工・林	前	◎		○
		化学概論Ⅰ	工・三木定	前	○		
		化学概論Ⅱ	工・石川	後	○		
		生物学概論Ⅰ	工・遠藤	前	○		
		生物学概論Ⅱ	工・遠藤	後	○		
		生命科学講話	府・塚本ほか	集中・夏	○	○	
		地球の科学	工・酒井	後	○		○
		宇宙と地球の科学	府・松村	後	○		

科目群		科目名	担当教員	開講期	授業目的区分 A	B	C
人間と自然（24科目）	人間と自然・科学	人と自然と数学α	工・大倉	前	○	○	○
		人と自然と数学β	工・塚本	後	○		○
		人と自然と物理学	工・萩原、播磨	後	○		○
		生物学的人間学	医・小野ほか	前	○		
		人類生態学	府・熊倉	後	○		
		意外と知らない植物の世界	機構・藤井ほか	後	○	○	○
		科学史	工・笠木	後	○	○	
		科学と思想	工・林	後	○		◎
		環境問題と持続可能な社会	工・高月	前	○		○
		食と健康の科学	府・東ほか	前	◎		○
		キャンパスヘルス概論	工・荒井	前	○	○	○
		時間生物学特論（※3回生以上（修士課程大学院生を含む。））	医・八木田	集中・夏	○		○
	京都学	京都の自然と森林	府・池田ほか	前	○		
		京都の農林業	府・宮崎ほか	後	○		
	リベラルアーツ・ゼミナール	リベラルアーツ・ゼミナールⅧ（製品の機能から科学を学ぶ）	機構・石田	後	○		○
合計74科目							
（再掲） リベラルアーツ・ゼミナール（9科目）		リベラルアーツ・ゼミナールⅠ（感覚で探る問題解決の方法）	機構・藤井	前・後		○	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅡ（現代社会に学ぶ問う力・書く力）	機構・児玉	前		○	◎
		リベラルアーツ・ゼミナールⅢ（社会科学の学び方）	機構・児玉	後		◎	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅧ（製品の機能から科学を学ぶ）	機構・石田	後	○		○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅨ（経営哲学）（※2回生以上）	機構・児玉	後	◎		○
	集中開講	リベラルアーツ・ゼミナールⅣ（現代社会と映画製作）	機構・長坂	集中・夏		◎	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅤ（アメリカと中国はいま）	機構・脇田	集中・冬		○	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅥ（現代イスラーム世界の文化と社会）	機構・田村	集中・冬		◎	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅦ（感性の実践哲学）	機構・桑子	集中・夏		○	○
（再掲） 京都学（12科目）		京都の歴史Ⅰ	府・樋木ほか	前	○	○	
		京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	後	○	○	
		京都の文学Ⅰ	府・藤原	前	○	○	
		京都の文学Ⅱ	府・藤原	後	○	○	
		京の意匠	工・並木	後	○	○	○
		京都学事始 ―近代京都と三大学―	機構・宗田ほか	前			○
		京の産業技術史	工・山田	前		○	
		現代京都論	府・宗田	前		○	
		医史学	医・八木	前	◎	○	
		京都の自然と森林	府・池田ほか	前	○		
		京都の農林業	府・宮崎ほか	後	○		
		英語で京都（※3回生以上）	機構・金澤	後		◎	○
（再掲） 2回生以上向け開講（3科目）		英語で京都（※3回生以上）	機構・金澤	後		◎	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅨ（経営哲学）（※2回生以上）	機構・児玉	後	◎		○
		時間生物学特論（※3回生以上（修士課程大学院生を含む。））	医・八木田	集中・夏	○		○

担当教員（それぞれの略称は、科目の提供大学・機関を示します。）
工：工芸繊維大学、府：府立大学、医：府立医科大学、機構：京都三大学教養教育研究・推進機構

授業目的区分（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）
A：人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。
B：世界の人々の多様な生き方を感受し、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。
C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟する。

平成27年度 授業科目の履修定員

共同化科目について、下表のとおり科目ごとに科目定員が定められ、各大学の定員枠も設定されています。

履修登録は、各所属大学の日程にしたがって、各所属大学で行います。希望者が多く各大学の定員枠を超える場合には、大学ごとに抽選を行い、履修者を決定します。抽選の結果、履修できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

なお、皆さんの履修希望がより多く実現できるよう、履修登録の状況を踏まえ、各大学の定員枠を調整したり、科目定員を変更したりする場合があります。

履修登録の際には、前後に履修する授業に支障が出ないよう、また、安全に移動できるよう、共同化施設までの交通手段や所属大学からの所要時間を十分考慮するようにしてください。

前期 授業科目の履修定員

科　目　名	担当教員	科目定員	うち工繊大	うち府大	うち医大
比較宗教学	工・若見	174	87	58	29
日本史	工・鬼頭	99	50	33	16
アジアの歴史と文化	府・向井	120	45	60	15
日本文学Ⅰ	医・早川	99	29	20	50
日本近現代文学	工・高木	99	50	33	16
西洋文学論	工・山下大	99	50	33	16
美と芸術	工・三木順	174	87	58	29
京都の歴史Ⅰ	府・櫛木ほか	196	74	98	24
京都の文学Ⅰ	府・藤原	99	37	50	12
人文地理学Ⅰ	医・阿部	120	36	24	60
社会学Ⅰ	府・玉井	174	65	87	22
現代の政治	府・依田	99	37	50	12
現代日本と経済	府・熊澤	99	37	50	12
公共哲学	工・小久見	99	50	33	16
心理学	工・大谷	196	98	66	32
現代社会とジェンダー	府・小沢ほか	120	45	60	15
現代教育論	工・塩屋	174	87	58	29
京都学事始―近代京都と三大学―	機構・宗田ほか	99	33	33	33
京の産業技術史	工・山田	99	50	33	16
現代京都論	府・宗田	120	45	60	15
医史学	医・八木	299	90	60	149
リベラルアーツ・ゼミナールⅠa (感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅡa (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅡb (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	30	10	10	10
物理学Ⅰ	府・春山	99	37	50	12
エネルギー科学	工・林	99	50	33	16
化学概論Ⅰ	工・三木定	120	60	40	20
生物学概論Ⅰ	工・遠藤	99	50	33	16
人と自然と数学α	工・大倉	99	50	33	16
生物学的人間学	医・小野ほか	204	61	41	102
環境問題と持続可能な社会	工・高月	174	87	58	29
食と健康の科学	府・東ほか	99	37	50	12
キャンパスヘルス概論	工・荒井	196	98	66	32
京都の自然と森林	府・池田ほか	174	65	87	22

◇夏期集中開講科目の履修定員

リベラルアーツ・ゼミナールⅦ（感性の実践哲学）	機構・桑子	30	10	10	10
発達心理学	医・小川	196	59	39	98
リベラルアーツ・ゼミナールⅣ（現代社会と映画製作）	機構・長坂	30	10	10	10
生命科学講話	府・塚本ほか	設けない			
時間生物学特論 (※3回生以上（修士課程大学院生を含む))	医・八木田	30	9	6	15

後期 授業科目の履修定員

科　目　名	担当教員	科目定員	うち工繊大	うち府大	うち医大
哲学	工・伊藤	174	87	58	29
宗教と文化	医・田中	99	29	20	50
東西文化交流史	工・オーガスティン	174	87	58	29
ラテン語	医・松本	99	29	20	50
西洋文化論	工・山下太	174	87	58	29
日本文学Ⅱ	医・早川	99	29	20	50
文芸創作論	医・藤田	120	36	24	60
京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	196	74	98	24
京都の文学Ⅱ	府・藤原	99	37	50	12
京の意匠	工・並木	99	50	33	16
英語で京都（※3回生以上）	機構・金澤	30	10	10	10
人文地理学Ⅱ	医・阿部	174	52	35	87
社会学Ⅱ	府・玉井	174	65	87	22
政治学	工・竹本	99	50	33	16
国際政治	府・依田	99	37	50	12
経済学入門	工・人見	174	87	58	29
文化社会学	工・工藤	99	50	33	16
生活と経済	府・小沢	99	37	50	12
現代社会と心	府・石田	196	74	98	24
人権教育	工・杉本	99	50	33	16
リベラルアーツ・ゼミナールⅠb（感覚で探る問題解決の方法）	機構・藤井	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ（社会科学の学び方）	機構・児玉	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅨ（経営哲学）（※2回生以上）	機構・児玉	30	10	10	10
化学概論Ⅱ	工・石川	99	50	33	16
生物学概論Ⅱ	工・遠藤	99	50	33	16
地球の科学	工・酒井	120	60	40	20
宇宙と地球の科学	府・松村	99	37	50	12
人と自然と数学β	工・塚本	120	60	40	20
人と自然と物理学	工・萩原、播磨	99	50	33	16
人類生態学	府・熊倉	99	37	50	12
意外と知らない植物の世界	機構・藤井ほか	51	17	17	17
科学史	工・笠木	99	50	33	16
科学と思想	工・林	99	50	33	16
京都の農林業	府・宮崎ほか	196	74	98	24
リベラルアーツ・ゼミナールⅧ（製品の機能から科学を学ぶ）	機構・石田	30	10	10	10

◇冬期集中開講科目の履修定員

リベラルアーツ・ゼミナールⅥ（現代イスラーム世界の文化と社会）	機構・田村	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅤ（アメリカと中国はいま）	機構・脇田	30	10	10	10

担当教員欄の「工」、「府」、「医」、「機構」は、科目提供大学を示し、それぞれ京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学、京都三大学教養教育研究・推進機構です。

各科目概要

★「大学」欄は科目の提供大学・機関を示し、略称「工、府、医、機」は、「工」: 京都工芸繊維大学、「府」: 京都府立大学、「医」: 京都府立医科大学、「機」: 京都三大学教養教育研究・推進機構を示します。

★授業目的区分（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）

A：人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。

B：世界の人々の多様な生き方を感受し、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。

C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟する。

■ 人間と文化

《人間と歴史》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
哲　学	工	伊藤　徹	後	哲学と呼ばれた知の営みがどのようなものであったのか、西洋哲学に限定するかたちではあるが、それが発生した古代ギリシアから、現代に到るまで、できるだけ通史的理解が可能になるよう、トピックを選んで解説する。 具体的に登場する固有名詞を挙げれば、イオニア自然哲学、ディオニュソス教とピュタゴラス教団、パルメニデス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、トマス・アキナス、オッカムのウィリアム、デカルト、カント、ニーチェ、新カント派、ディルタイ、ヴィトゲンシュタイン、オースティンなど。	哲学は、そもそも「知を愛し求める」という人間の基本的な姿勢を意味しています。「愛し求めること」は、答えという終決をもちません。哲学の歴史を振り返ることによって、答えのない問いと、それを問い続けることの重要性を学び、現代に生きる私たち自身の在り方を振り返る機縁としてほしいと思います。	○	○	
比較宗教学	工	若見　理江	前	宗教は自分にとって無関係なものと思っている人でも、身近な人の死に遭遇したり、自分もまた死ぬという事実に直面したりするとき、宗教と無縁ではない。死は誰にでも訪れる普遍的な出来事であるが、死の意味づけは宗教によって異なっており、そのときどきの時代に支配的な世界観によって変化してきた。死をどのように捉えるかということは、どのように生きるかという問題に関わってくる。 本講義では、「葬送儀礼」「墓」「死後世界」などを取り上げながら、世界の諸宗教および日本人の死生観を紹介し、異文化についての知識を深めるとともに、宗教がいかに私たちに関係しているかを理解することを目標とする。	特定の宗教に対する自覚的な信仰をもっていなくても、私たちの暮らしは宗教的な事象に満ちています。私たちが生活するなかで自然と身につけてきた考え方を相対化して見ることは、自分自身や自分の育ってきた環境を改めて知るだけでなく、自分と違った生き方をしている人々を理解することにつながってくるでしょう。		○	
宗教と文化	医	田中　純子	後	14世紀ほぼ60年間続いた動乱の南北朝時代は、社会の各層の人々を否応なく巻き込み、社会や人々に変化をもたらし、多大な影響を及ぼしました。中でも新たに台頭してくる芸能の動きとそれを担う人々、特に名前に「阿弥陀仏」の付く「阿弥」号者の活動は、注目されます。宗教の支配及び加護からぬけだそうとした芸能者は、京都の新たな主人となった足利将軍との関係を深め、更には室町時代の文化創造の一端を担うことになります。授業では、社会の大変革期である南北朝期を中心に、時代・社会の変化を検討しながら、その変化と芸能の発展及びそれを支えた芸能者の活動について考えます。	中世後期に花開いた室町時代の文化は、その後、更に洗練されて現代へと継承され、日本独自の文化とよばれるようになります。能然り、狂言然り、床の間と床の間飾り然り、喫茶然り。現代社会に息づいている日本の文化・歴史を再認識し、中世の人々の思いにも触れてほしいと思います。	○	○	
日本史	工	鬼頭　尚義	前	高校までに学習してきた日本史は、主に「為政者の歴史」である。もちろん、「為政者の歴史」も事実であるが、それだけが真実ではない。本講では、教科書に載っている有名な「歴史的事項」を別の側面から迫ることで、新たな見方を提供したいと考えている。もちろん、高校で日本史を勉強してこなかった学生の受講も歓迎する。	歴史＝真実だと思っている人にこそ、受講してほしいと思います。「別の側面」から眺めることで、新たな「事実」が浮かび上がってくるかもしれませんよ。受講生の積極的な意見、教員をある意味「困らせる」ような意見を待っております。	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
東西文化交流史	工	オーガスティン・ジョナサン	後	漢王朝とローマ帝国の時代から冷戦後まで、東西の外交関係は、常に複雑で崩れやすいものであった。今日の国際事情に精通するには、中国と欧米の外交ばかりではなく、歴史、芸術、宗教的な基盤の差異を理解する必要がある。 この授業では多様な視点から、東西軸の基盤を分析し、相対的な人間学を探求する。	二十一世紀は、商社やマスコミ関係の仕事に就かなくとも、米中欧関係の変化を学んでいく必要があります。世界の食料輸出国でもあり、大量の国債を保有している中国と良好な関係を築いていくには、まず東西軸の基盤を見直すことから始めなければなりません。 この授業では、東西思想の相違点と共通点を分析しながら、より相対的な歴史観を身につけていただきたい。	○	○	○
アジアの歴史と文化	府	向井　佑介	前	中国は、近代以前において、世界をリードしてきた地域のひとつであった。日本を含む東アジアの歴史は、つねに中国との関係のなかで展開してきたのである。古代中国の文化を知ることは、日本文化の来歴をさぐることでもある。 近年の中国では、考古学の方法による発掘調査が急速に進み、文献史料にもとづく従来の歴史は大きく塗りかえられつつある。この授業では、おもに先史時代から唐代までを対象とし、中国の伝統文化がどのように形成され、またその伝統がどのように東アジア各地に影響をあたえたのかを考えていく。	考古学は、モノからヒトの過去をさぐる学問です。歴史の一分野に属していますが、発掘調査や理化学的分析を用いる文理融合型の学問です。文字から想像することしかできなかった歴史が、実際に地中から発掘された資料によって、色鮮やかに復原される面白さを体験してみてください。	○	○	

《文化・芸術》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
ラテン語	医	松本加奈子	後	ラテン語の初歩を学びます。古典語ではありますが、現在でもa.m.（午前）やp.s.（追伸）といった略語、自動車などの機械類の製品名で目にしている語も少なくないでしょうし、何よりも、ヨーロッパ諸言語のルーツを知ることで、英語を初めとする西欧諸言語の習得に役立つだけではなく、アルファベットの羅列に見えていた既習の英単語までもが深みと広がりをもって見えてくる興味深い言語です。 ほぼ全員が初めて学ぶ言語ですので、基礎から学んでいく予定ですが、文法や語彙の単なる丸暗記ではなく、長い時を経て人々が培ってきた文化の一つとして言語の成り立ちを鑑賞することで、言葉そのものに対する興味と知識を増すきっかけとなればと思います。	医学、薬学、化学元素、植物名、美術、宗教、文学etc.（ちなみにetc.もラテン語です）と、理系文系を問わず様々な学術用語の基礎であるラテン語を、様々な専攻分野の皆さんが集まって学習できる機会を楽しみにしています。	○	○	
西洋文化論	工	山下　太郎	後	古今東西という言葉がある。我々は東洋の今を生きている。そんな我々にとって一番なじみの少ないのが西洋の古典文化ではないだろうか。当時の人間が残した言葉は、今も欧米人の心の琴線に触れる価値を持つ。では、我々はどう感じ、どう思うだろう。異文化はおのが文化を照らし出す鏡である。 西洋古典文化を代表する名言を手がかりにして、今を生きる我々にとって価値ある指針とは何かを探りたい。	予備知識は前提としない。心の目を大きく開けて、ピンとくる「何か」との出会いを楽しみにして欲しい。	○		○
日本文学Ⅰ	医	早川久美子	前	日本文学は、様々な内容を多様な表現方法を駆使して創作されている。この講義では、〈女主人公〉の「祈り」、「執心」、「怪異」をキーワードにして考えてゆく。取り上げる作品は、各時代の、いろいろなジャンル（説話・王朝物語・説経・演劇・浮世草子・読本・芸能）から選ぶ。作中人物の行為としての「祈り」は、我々にとっても「現実」（実際に体験できるのだという感覚）を見出しやすい。「執心」や「怪異」は、本来は忌避されるべきものであるが、やはりそこにも「現実」を感じとってしまうであろう。実際にテキストを音読し、あるいは関連する他の作品と比較することによって、作品の価値を吟味しつつ、そのような「現実」を享受することを目的としたい。	作者に興味を持ち、繰り返し音読してゆけば、とっつきにくい古典文学も、次第に「わかる」ようになってきます。兼好法師は、『徒然草』第13段で、「ひとり燈のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなうなぐさむわざなる。」と述べています。私たちも古人のこころにふれつつ、作品を享受できればと考えています。	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
日本文学Ⅱ	医	早川久美子	後	日本文学は、様々な内容を多様な表現方法を駆使して創作されている。この講義では、〈男主人公〉の「祈り」、「執心」、「怪異」をキーワードにして考えてゆく。取り上げる作品は、各時代の、いろいろなジャンル（説話・王朝物語・軍記物語・演劇・浮世草子・読本・芸能）から選ぶこととする。作中人物の行為としての「祈り」は、現代に生きる我々にとっても「現実」（実際に体験できるのだという感覚）を見出しやすい。「執心」や「怪異」は、本来は忌避されるべきものであるが、やはりそこにも「現実」を感じとってしまうであろう。実際にテキストを音読し、あるいは関連する他の作品と比較することによって、作品の価値を吟味しつつ、そのような「現実」を享受することを目的としたい。	作者に興味を持ち、繰り返し音読してゆけば、古典文学も「わかる」ようになってきます。手塚治虫は、「君たち、漫画から漫画の勉強するのはやめなさい。一流の映画をみろ、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読め。そして、それから自分の世界を作れ。」と述べています。私たちも一流の作品を学んでゆきましょう。	○		
日本近現代文学	工	高木　彬	前	文学の魅力は、未知の空間を仮想体験できること。しかし実は僕たちは、その体験をとおして既知の空間のリアリティを知る。たとえば、稲垣足穂や村上春樹の描く神戸は、虚構の神戸でありながら、現実の神戸よりも“神戸らしい”。文学のなかの都市・建築空間は、作中人物の主観によって捉えられているからだ。地図や建築図面の空白部分、そこに充ちているはずの雰囲気や空間性を、文学から読んでみよう。そこにはきっと、僕たちにとってリアルで切実なものが含まれているはずだ。 この講義では、足穂や春樹をはじめとした近現代文学を手がかりに、都市・建築空間を読み解きたい。あるいは、都市や建築の観点から文学を読み解きたい。	「文学」と銘打っていますが、文学好きでなくてもかまいません。どうすれば理系のあなたが文学を面白く読めるのか、そのポイントの一つをご紹介します。あるいは、ふだん建築の設計課題に追われているあなたにとっては、コンセプトづくりのヒントが得られるかもしれません。 文系／理系の境界線を、軽々と越えて行きましょう。	○	○	
西洋文学論	工	山下　大吾	前	ホメーロスの『イーリアス』『オデュッセイア』という二大叙事詩に端を発するヨーロッパ文学。それは今日まで、その最高の模範に戦いを挑むかの様に、各時代各地域の様相を彩り、映し出しながらも、同時に普遍的価値をも併せ持つ古典的な作品を数多く生み出しており、21世紀の現代日本に生きる我々をも魅了してやまない。 本講義では、ギリシア・ラテンの西洋古典に由来する汎ヨーロッパ的な統一性に留意しつつ、その主要作品の内容、およびそれらに備わる特徴や創造的側面を概観する。合わせて漱石や鷗外、二葉亭など、我が国の文豪の残した作品や批評、翻訳などに見られるヨーロッパ文学に関する言葉を手掛かりとした紹介を試みたい。	西洋各国の文学作品を根底から支えている philology「ことばに対する愛」は、洋の東西を越え、人間の有する本源的な力と言ってよいでしょう。その力を皆さんと共有し、再確認する場になればと考えています。意欲的な学生の参加を期待しています。		○	
文芸創作論	医	藤田　佳信	後	創作する目的で様々な文芸作品を読み、作品・作者とその時代について考える。短いエッセイを創作し、小説を構想（構想のみ）する。講義で取り上げる題材は、国内外・古今のエッセイ・小説・物語・戯曲・評論・詩歌など。 目標は、創作の実践的な技術と思想を学び、履修者各自が自分自身のオリジナルな技法と創作方法論を模索し、発見すること。	創作する主体「私」とその時代・生きる世界・言葉・思想について考え、「私」は何を・誰に向かって・どのように・なぜ書くのか等々について問いかけながら、創作の技術と思想について学びましょう！　履修者において、＜読み書く＞行為の意味が変わることを期待しています。		○	
美と芸術	工	三木　順子	前	Artという語は、「芸術」とも「美術」とも訳される。このことからもわかるように、一般に美と芸術は深い結びつきをもつものとみなされてきた。だが今日、美と芸術は、必ずしも相互に関連するものではなくなっている。 この講義では、もはや「美しい」という形容詞では説明できなくなった芸術の諸相を明るみにだすとともに、芸術と乖離した美が、今日、どのような場でどのような意義と課題をもって現象しているのかについて考察する。	私たちは、展覧会やコンサートを自由に選び、好きなようにアートを楽しんでいます。しかし、このような気ままな芸術体験の次元から一歩踏み出し、より根本的に、なぜ人間は美や芸術を必要とするのかに目を向けるとき、芸術は、たんなる趣味の対象ではなく、学問の対象として、新しい姿で立ち現れてくることになるでしょう。	○	○	

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の歴史Ⅰ	府	櫛木　謙周 ほか	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○	○	
京都の歴史Ⅱ	府	小林　啓治 ほか	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○	○	
京都の文学Ⅰ	府	藤原　英城	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
京都の文学Ⅱ	府	藤原　英城	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○	○	
京の意匠	工	並木　誠士	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○	○	○
英語で京都	機	金澤　　哲	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。 ※3回生以上を対象			◎	○

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅦ	機	田村 うらら	集中・冬	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。			◎	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅧ	機	桑子　敏雄	集中・夏	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。			○	○

■ 人間と社会

《社会科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
人文地理学Ⅰ	医	阿部　美香	前	地理学は、地表面上で生起する諸事象を研究対象とする学問である。地理学の中でも特に、人文・社会現象を直接の対象とするものを人文地理学という。人文地理学の中には、都市地理学・農村地理学・人口地理学・社会地理学・経済地理学・文化地理学・歴史地理学など、様々な分野が存在する。本授業では、人文地理学における各分野に関して、その概要と研究例を紹介する。また、風景・景観・場所・空間・立地・風土・環境・地誌・地図等、人文地理学における基礎概念を解説する。各回の講義の中で、受講者が地理学的な思考や手法とはどのようなものか、ということへの理解を深め、社会で起こる様々な事象への見方を広げることを目的とする。	地理学と聞いて、皆さんは何を想像するでしょうか。色々な場所の自然条件を思う人も多いでしょう。でも地理学にはもっと沢山の分野があります。人文地理学が対象とする事柄に触れ、地理学はこんなにも幅広い学問なのかと驚く人もいるかもしれません。講義で扱う議論から、自身の視野をまた一つ広げてもらいたいと願います。	○	○	
人文地理学Ⅱ	医	阿部　美香	後	地表面上の様々な事柄を探究する地理学の中で、人文地理学は特に人文・社会現象を直接の対象とする。本授業では人文地理学に属する分野のうち、特に歴史地理学の手法や内容を取り上げる。歴史地理学は「過去の地域像を解明する」という基本概念を持つ。講義で取りあげる主たる史料は、近世日本で生み出された地図、地誌類、名所案内記、浮世絵版画などである。それらの史料から、それぞれに表された過去の地域像を読み取っていく。歴史地理学の基本的な考え方を理解し、「過去の地域の姿を見つめ直す」という視点が、現代的課題を考察する時、どのように活用できるか、受講者各々が考えられるようになることも、本講義の目的である。	講義はできるだけ、江戸時代に存在した史料を元に進めます。当時の人々はどのようなことを考えて、それらの史料を生み出していったのか。講義の中で想像力を膨らませ、過去の地域の姿を考えてみてください。また、そのような過去の地域像から現代に活かしうることは何か、という視点も持ってもらえることを願います。	○	○	
社会学Ⅰ	府	玉井 眞理子	前	本授業では、都市、逸脱、マイノリティ等の社会的トピックに焦点づけ、社会学において蓄積されてきた分析視角に照らし、考察を行う。 社会学は社会的存在として人間をとらえるが、時に劣等/優越感に行動を左右される主体の集合体である社会を、社会学がどのように把握しようとしてきたかを知ることは、社会学を専門にしようと志す者でなくとも、社会で生きていく者全てにとって有用である。 加えて本授業は受講生間のグループディスカッションのみならず、授業ごとに受講生は得た知見を復習し、カードに書き取り提出する機会が用意されている。従っていわゆる「承り型」ではない学習形態、すなわち受講生の主体的な態度を育む参加型学習を一部取り入れている点に特徴がある。	講義だけで社会学の内容を理解することは困難である。新聞を読むことはもちろんのこと、少し難解な社会学の「古典」を読破することも重要である。 また積極的・主体的な学修態度で授業に臨んでもらいたい。	○	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
社会学Ⅱ	府	玉井 眞理子	後	本講義は前期に開講される「社会学Ⅰ」に引き続くものであるから、「社会学Ⅰ」を受講していることが望ましいが、本講義を単独で履修することも可能である。 「社会学Ⅰ」ではどちらかといえば抽象的な考察を深めるが、本講義「社会学Ⅱ」では、「男女共同参画」や「NPO」、「貧困」等、より具体的なテーマを取り上げ、私たちが豊かな社会を構築するにはどう生きていけばいいかといった問題を視野に入れつつ、考察を深めていくことにしたい。	講義だけで社会学の内容を理解することは困難である。新聞を読むことはもちろんのこと、少し難解な社会学の「古典」を読破することも重要である。 また積極的・主体的な学修態度で授業に臨んでもらいたい。	○	○	○
政治学	工	竹本　知行	後	政治学の基礎知識を得ることで政治を見る「目」を養う。人間の社会が存続する限り、「政治」なるものは消えることはない。では、我々が付き合わざるを得ない「政治」とはどのようなものなのか、そして、我々はそれにどう向き合っていけばよいのだろうか。 本講義では、テキストを中心に以上の問題について考察を進めつつ、適宜、指定した参考文献なども用いて、先人が政治とその諸テーマについてどのように考えてきたのかについての理解も深める。	「人間は政治的動物である」(アリストテレス) とは、しばしば引用される言葉であるが、彼の時代から2500年を経た今日でも、人間は協調と共同と競争に生きる「政治的動物」であることをやめていない。 講義では様々な問いを投げかけていきたい。それについて考えることを通じて、人類史を貫く「政治的」営みに接近してほしい。	○		○
国際政治	府	依田　博	後	軍事力は平和を破壊する要因であると考えられがちである。平和を破壊するのは、軍事力そのものだけではなく、別の要因、たとえば貧困、民族、宗教などの要因も作用している。授業では、破壊された平和の再構築、すなわち平和構築・維持ならびに人間の安全保障の意義・方法を学習し、国際社会の構造からその限界を理解する。 国際関係の仕組みを理解する前提として、「なぜ」という問いを発するための技法を最初に学習する。その意図は、暗記する学習から自ら理解する学習への転換を図ることにあり、とくに身の回りに起こる出来事を常識にとらわれない発想力で理解する力量を身につけることにある。	毎日、新聞を読む、あるいはインターネットでニュースをチェックする習慣を身につけてください。ニュースをチェックすることは、授業の予習・復習にもあたります。時事問題に関心を持つことなく「政治」を理解することは不可能です。	◎	○	○
経済学入門	工	人見 光太郎	後	経済学とは、人間や企業が経済的な誘因に対してどのように行動し、その結果として経済システムがどのように働くかを分析する学問です。 この授業ではトレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配という現代経済学の中心概念をもとに経済学の基本的な考え方と分析の方法を学びます。	経済に関した問題では立場の違いにより極端な議論が行われる場合がありますが、できるだけ客観的な事実に目を向けるようになって下さい。	○		
文化社会学	工	工藤　保則	後	受講生が「日常生活の中に存在する『文化』を、社会学的に理解できるようになる」ことを目的とする。 授業内容は次のように予定している。第1回 はじめに、第2回「文化社会学」の視点、第3回～第5回 情報と文化、第6回～第8回 家族と文化、第9回～第11回 都市と文化、第12回～第14回 芸能と文化、第15回 おわりに。	「文化」に関するもの・ことは私たちの生活の中に「あたりまえ」に存在している。あたりまえすぎて、普段はあまり意識しないくらいである。そういうもの・ことを、授業を通して少し考えてみることで、あたりまえがあたりまえでないようになってくればいいと思う。 授業においては、遅刻や私語は厳禁とする。	○		○

《人間と社会》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
現代の政治	府	依田　博	前	日本の政治の仕組みの基本を理解することを通して、政治学の基礎を学習する。キーワードは、民主主義、政治制度、フリーライダー、選挙、マスコミ、グローバリゼーションである。 また、政治の仕組みを理解する前提として、「なぜ」という問いを発するための技法を最初に学習する。その意図は、暗記する学習から自ら理解する学習への転換を図ることにあり、とくに身の回りに起こる出来事を常識にとらわれない発想力で理解する力量を身につけることにある。	毎日、新聞を読む、あるいはインターネットでニュースをチェックする習慣を身につけてください。ニュースをチェックすることは、授業の予習・復習にもあたります。時事問題に関心を持つことなく「政治」を理解することは不可能です。	◎		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代日本と経済	府	熊澤　大輔	前	現代日本と経済では経済学的アプローチを用いて社会の仕組みを分析する。本科目の目的は、日本経済の分析を通じて資本制経済の本質を理解し、適切に経済政策を評価できるようにすることである。 講義では、社会システムとしての資本制経済の特徴から、不況・恐慌の原因や経済政策の効果、といった身近な課題まで基礎的な経済理論を用いて説明する。	経済学は我々の生活に直結する学問です。経済学の考え方を知ることで新聞記事や政府の政策がどのように我々に影響するかを理解することができます。講義では身近なトピックスを扱いますので、各々が興味関心のあるテーマを見つけてください。	◎		○
生活と経済	府	小沢　修司	後	経済（＝生活の営み）の仕組みを知ることは、私たち自身が社会の主人公になる上で欠かすことができない。にもかかわらず、「経済学」には私たちの生活とは縁遠い難しい学問とのイメージがつきまとう。なぜ、「経済学」は日常の生活、暮らしから離れていったのか、「生活と経済」の切り口から経済学の特有なものの見方、考え方を平易に解説しながら、経済学の人間的再生を目指す。	大学での学習では２つのことが大切です。１つは「常識を疑う」こと。もう１つは「何故？」と問いかけること。授業では、みなさんが「当たり前」と思っているいろいろな考え方や観念を突き崩していきたいと思っています。 考え方の「再構築」にあたっては、「生き生きとして現実感覚」で「古典」を学習することが有効です。	○		○
公共哲学	工	小久見祥恵	前	公共哲学とは、広く公共的な事柄について、思想的に考えようという、哲学・倫理学、法学、政治学などにまたがる分野です。この講義では、正義論に焦点を合わせます。例えば、「社会における経済的な『格差』は縮小されるべきか」、「社会全体の利益を最大化するために、一部の市民の利益は犠牲にされてもよいか」あるいは「同性愛カップルの結婚は認められるべきか」といった問題は、公共的な制度や政策のあるべき「正しい」姿にかかわるという意味で正義の問題です。正義をめぐる論争を学び、「正義にかなった社会」はどのようなものかについて考えます。	正義について、身近に感じたり、考えたりすることはないかもしれません。ですが、私たちが各々の生き方を全うできるためにも、他者といかに共生すべきか、どんな社会が望ましいのか考える必要があるでしょう。正義の問題は、社会に生きるうえで私たちが避けて通れない、正解のない問題です。この講義が、自分なりに、正解のない問題について考え、向かい続ける手がかりになればと思います。		○	○
心理学	工	大谷　芳夫	前	本講義で取り上げる主な内容は、心理学のうち実験心理学と呼ばれる分野に属するものである。実験心理学は、人間の心の働きを科学的に解明し、その法則を明らかにしようとする学問である。実験心理学が対象とする範囲は多岐にわたっており、医学、生理学、情報科学など様々な学問分野とも密接に関係している。 本講義では、心の働きの基本的な側面である、視覚（ものを見る働き）・記憶（ものごとを覚える働き）・学習（環境に合わせて行動を変化させる働き）の機能を取り上げ、基礎的な現象や知識を紹介するとともに、実験心理学の方法論や考え方について解説する。 また、これらの心理学的機能を支える、眼や脳の生理学的機構についても紹介する。	「「こころ」とはなにか」という問いは、人間にとって根源的な問題です。実験心理学は、この疑問に科学的な方法で答えを得ようと取り組んできた学問です。皆さん一人一人が持っている「こころ」について、現在の科学はどう答えるのか・答えられないのかについて知り、自分自身を見つめ直すきっかけとなればと思っています。	◎		
発達心理学	医	小川　恭子	集中・夏	人の発達は子どもから大人になる時期だけのことではなく，生涯にわたって発達するものと考えられている。短い期間に大きな成長がみられる乳幼児期，大人になる心理的・社会的変化を感じる青年期，大人になってからの成人・老年期等，それぞれの時期について研究が進められている。 このような人間の生涯にわたる発達について，心理学的側面を中心に学ぶことを目標とする。発達心理学の諸理論を概観し，人生の各時期の発達課題や起こり得る問題，環境との相互作用等について学び，理解を深める。	心理学では科学的な手法を用いて現象を明らかにしようとします。しかし，人のこころについて100%正解といえることはなかなかありません。そんな学問に取り組むのは難しく興味深いことです。自分自身で考えようとすることがその後に生きてくると思います。	○	○	
現代社会と心	府	石田　正浩	後	組織と関わらずいられないのが現代社会の特徴である。組織心理学は、そのような組織における人間の心理・行動を研究する学問領域である。組織はその構成員から組織目標を実現するための貢献を期待するが、構成員は収入を得ること、自己実現の機会を与えられることなどさまざまな期待をもって組織と関わり、お互いの期待が一致することは難しい。 本講義では、組織心理学・社会心理学が蓄積してきた、主としてモチベーション・コミットメント・リーダーシップについての知見を知ることを通して、現代の組織を生きる人間の心理学的・行動学的特徴を理解し、自らのキャリア（職業人生）を考えていく心理学的な視点を学ぶ。	自分が所属するゼミやサークル、アルバイト先といった集団も組織です。そこでの自らの体験に引きつけて授業内容を体感してください。	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代社会とジェンダー	府	小沢　修司 ほか	前	男女共同参画社会の実現に向けて、ジェンダーをめぐる人権問題について自己の問題でもあるとして積極的に関心を持ち続けることができるようにしたい。 内容構成の柱は、大きく3つに分けられる。一つは、人類の歴史をジェンダーの視点から捉え直す。二つ目は、ジェンダーをめぐる制度・政策について、国内外の条約や法律、社会政策等からその到達点や課題を考察する。三つ目は、言語や文学、心理学、教育などがジェンダー・イデオロギーを生産・再生産するという問題等を検討する。 授業の方法としては、主には講義形式に依りつつも、最終講義は学生からのアンケートに答える形で、講義担当者全員による討論会形式によって行い、受講生と講師団との「キャッチボール」を実現したい。	ジェンダーという言葉を聞いたことはありますよね？でも、もしかして女性差別の問題であると理解していませんか？もちろん、その側面は重要な要素ですが、それだけではありません。え、こんなところにもジェンダーが！さまざまな発見があり、授業終了時にはあなたの「当たり前」の意識は大きく変わっていることでしょう。		◎	○
人権教育	工	杉本　弘幸	後	近代日本社会の歴史を様々なマイノリティとの関係から考察する。日本の近代化過程における社会的マイノリティに対する差別の実態、マイノリティの差別撤廃運動参加など、できるだけ具体的事例を取り上げながら検討していく。特に、差別撤廃政策のように見えつつ、新たな抑圧を生んだ施策に注意を払って講義をすすめていきたい。また、マイノリティの側が、そうした施策に対してどのような態度を示したのかという問題も視野に入れる。なお大学の所在する京都の事例を中心にできるだけ具体的に文献・図像・映像史料を駆使した講義やフィールドワークをすすめていく。	みなさんが、これまで受けてきた「人権教育」は差別はいけない・よくないの一点張りだったことがおおいでしょう。いわば、「うさんくさい」・「あやしい」ものだったのではないでしょうか？　本講義では最新の人文・社会科学の研究成果をもとに、大学における「学問」としての人権問題を歴史的なアプローチを中心に学んでいきます。「人権教育」というと、これまで「うさんくさい」・「あやしい」と考えてきたあなたを歓迎します。	○		○
現代教育論	工	塩屋　葉子	前	我が国の近代公教育は、明治維新の「学制」発布に始まる。この時、我が国は歴史上類を見ない程の大きな教育改革を果たすのだが、同時に、学歴社会や受験競争など、解決を急務とする多くの教育問題の発端もここに求めることができる。「学制」発布以降、幾度かの大きな教育改革に迫られ今日に至るのだが、本講義では、特に現代の教育改革に焦点を当て、その実態を明らかにするとともに、今後の課題を考察し、我が国の教育の在り方を展望する。	みなさんは今、学校教育の最終段階で学んでいます。この時点において、自分がこれまで受けてきた学校教育とはどのようなものであったのかを振り返り、そして、これから受けるであろう教育について展望することは、発展的な自己形成を図っていく上で有意義なことだと思います。教育について、一緒に考察していきましょう。		○	○

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都学事始ー近代京都と三大学ー	機	宗田　好史 ほか	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。				○
京の産業技術史	工	山田 由希代	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。			○	
現代京都論	府	宗田　好史	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。			○	
医史学	医	八木　聖弥	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		◎	○	

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅠ	機	藤井 陽奈子	前・後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。			○	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅡ	機	児玉　英明	前	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。			○	◎
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ	機	児玉　英明	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。			◎	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅣ	機	長坂　勉	集中・夏	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。			◎	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅤ	機	脇田　哲志	集中・冬	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。			○	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅨ	機	児玉　英明	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。 ※2回生以上を対象		◎		○

■ 人間と自然

《自然科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
物理学Ⅰ	府	春山　洋一	前	この講義では物理的な見方や考え方を養うことを目的とする。物理公式や数式の扱いには重点を置いていない、自然科学の基本となる単位や次元から始めて、次元解析の話題を紹介する。次に、自然科学の歴史から古典力学の成立までを主なテーマに講義する。話題とするのは、初期の哲学者、ガリレオ、ケプラー、ニュートンなどの考え方とその業績である。 古典力学の重要な到達点としての運動方程式の意味や扱いについて述べ、まとめとして物理で重要な保存則の意味と扱いについて述べる。	科学技術の急速な進歩に伴い、先端技術を取り込んだ様々な機器が普及し、その恩恵を受けながらも、多くの人々にとって中身はブラックボックスとなりつつある。これが科学の時代における「非合理性」の背景になっているように思える。 分からないなりにも合理的に物事を考えるというスタイルを身につけることが大切である。	○		
エネルギー科学	工	林　哲介	前	身のまわりには、力学的エネルギー、熱エネルギー、電力エネルギー、原子エネルギー、光エネルギーなど各種のエネルギーがある。これらの概念を、古典物理学の枠組みに沿って、論理的・系統的に追跡し、自然界におけるエネルギーの保存・変換や散逸の原理を理解する。また原子力発電やエネルギー開発の課題について検討する。 大学入学までに物理学を学習した受講者が、そうでない受講者に対して説明し、また後者が前者に納得いくまで質問する、という授業方法によって、協働して双方の理解を高める。	一方的な講義はなるべくしないことにします。各回のテーマごとに用意するテキストに沿って、グループごとに説明と質問・討論を行い、理解を深めるような授業を行いたいと思います。 後半には、原子力発電やエネルギー開発の問題について専門家の話も聞き、討論します。物理を履修してこなかった人には良い学習の機会になります。	◎		○
化学概論Ⅰ	工	三木　定雄	前	高度な技術、資源、エネルギー、環境など、現代の社会を考えるに不可欠なキーワードのどれもが、物質と密接に関係しています。その意味で、物質を対象とする科学である化学は、現代社会で知識人たろうとするに、必須の素養といえます。この講義では、物質について理解が、どのように変遷し、今日での理解に至ったのかを、化学における歴史上のエピソードをなぞりながら学習し、それを通じて、“物質のなりたち”と“物質の変化”という化学の大きな輪郭を勉強したいと思います。	わが国では、“きたるべき受験への対策”に縛られがちな授業のあり方が、自発的な知識欲を減退させているのは否めません。軽重の差はあっても、皆さんは高校化学にふれてきたと思います。しかし、化学の面白味をふつふつと感じた人は、少ないかも知れません。大学に合格されたいま、そのおもしろさを再発見しながら、教養としての化学に触れていただければと思います。	○		
化学概論Ⅱ	工	石川　洋一	後	暗記するのではなく、大学生として感覚的に身につけておいて欲しい（物理）化学的な考え方が幾つかある。それは、「熱力学」と「量子化学」と、それらを基にした「化学反応論」である。しかし、高校のときに学んだ化学とこれらの考え方の間には、比較的大きなギャップがあるように思われる。このギャップを少しでも埋めるために、「サビと老化」、「クーラーの効率」、「視覚と色」といった身近な化学現象を題材として、上記三つの考え方の概要を論述したい。	化合物名も化学反応式も覚えなければいけない。その複雑多岐性ゆえに化学は暗記に頼らなければいけなさそうに見える。しかし、物質を構成する粒子は“原子核”と“電子”であり、化学的性質は電子によって支配されているといっても過言ではない。この電子を理解することで、暗記に頼らず演繹的に化学を理解する筋道を示す。	○		
生物学概論Ⅰ	工	遠藤　泰久	前	生命とはどのようなものか、どのように構成されているか、どのように関わり合っているか、生命の様々な特徴（生、死、不死とはどのようなことか）、身体の仕組みと機能（骨格、筋、神経、消化、免疫などの仕組み）、環境と関わり（共生、寄生、社会性）などについて学ぶ。	生物学は名前のとおり、生物についての学問ですが、その方法は様々であり、「生物学」の特別の調べ方はありません。「生きているもの」の仕組みや働きを、ある場合は化学的に、ある場合は物理学的に、ある場合は数学的に調べる必要があります。	○		
生物学概論Ⅱ	工	遠藤　泰久	後	生物の様々な特徴、繁殖（無性と有性、どのように子孫を残すか）、発生（身体はどのように形成され、老化していくか）、遺伝（父親からの分け前と母親からの分け前）、再生とはどのようなことか、種とは何か（進化）などについて学ぶ。	「生きているもの」は時間の関数で変化し続けています。ある瞬間の状態を明らかにしたからとしても、その本質を充分に理解したとは言えません。多様性をつくり出す仕組みや、生命のうごいていく過程をみつめ直してみましょう。	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
生命科学講話	府	塚本　康浩 ほか	集中・夏	遺伝子、植物、動物や病原体の研究、さらにはそれらを基盤とした食品や医療への応用について学ぶ。教科書などでは見ることが出来ない教員が実際に行ってきた研究成果を実感し、生命科学研究の本質を「講話」という形で体験する。	生命科学の研究における生データや今後の将来性を、実際に手を動かして実践してきた研究者（教員）から感じ取って欲しい。さらに、生命科学の研究に興味を持って貰えたらと願う。	○	○	
地球の科学	工	酒井　敏	後	地球は太陽系の中で唯一、液体の水を持つ惑星として生まれ、進化を遂げて来た。水を持つことで、地球は他の天体と大きく異なる運命をたどることになった。 この講義ではまず、宇宙誕生から現在にいたるまでの歴史を振り返り、「地球誕生の物語」を解説する。後半は、「現在の地球環境」を維持する大まかなメカニズムについて解説する。 日常の生活とは全く違う視点から、ピュアな気持ちで地球を考えることで、「我々の地球」に対する認識は大きく変わるはずである。	世の中、真面目だけでは通用しない。高校までは、真面目に100点を目指せばよかった。しかし、状況が変われば、その点数そのものが無意味になる可能性もある。それが自然界の掟であり、人間社会もその中にある。地球と地球生命の歴史は、その事実を雄弁に物語る。これを知ることは、子供から大人への第一歩である。	○		○
宇宙と地球の科学	府	松村　一男	後	宇宙と地球に関する研究は20世紀に入って急速に進展してきた。授業では、最新の情報だけでなく、宇宙の誕生から現在までの変遷のプロセスを、人類がどのような事実から明らかにしてきたか、宇宙観の変遷という観点から見てみる。 また、地球については、人類がどんなデータを集め、それをどのような手法で処理して、地球の変遷を明らかにしてきたかを。そのことによって、データの重要性および科学的手法を理解できるようにする。 数学・物理学的知識に関しては基本的なものにとどめ、論理的思考に重点を置いて授業を進める。	宇宙と地球について、現在知られていることが、どのようなデータを積み重ねて、どのような定理を基に導かれてきたかという観点で見ていきます。 事象を暗記しても実生活に益する事は、ほとんどありませんが、論理の展開を理解することは、他の研究分野でも必ず必要となる論理的思考に繋がるものです。	○		

《人間と自然・科学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人と自然と数学α	工	大倉　弘之	前	高等学校や大学初年次で学ぶ数学の題材は主として19世紀までに確立したものであり、中にはその考え方が4000年以上遡るものもあります。本授業ではいくつかの題材についてその起源にさかのぼって、元々の考え方に触れ、それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるかを理解することにより、現代における数学の役割や必要性等について見直す機会とします。 歴史的な資料等に基づいての講義と演習から成り、演習では、歴史上の元々の考え方に触れながら、現代の数学の「言葉使い」を用いた問題の解法や実際の計算法等を学びます。	これまで、どうも数学は苦手だと思っていた人からどんどん数学を使いこなそうと思っている人や数学の教員を目指すような人まで、幅広く受講して欲しいと思っています。 数学の色々な考え方をそのルーツをたどりながらより身近に感じてもらうことで、皆さんの数学に対する見方が変わります。	○	○	○
人と自然と数学β	工	塚本　千秋	後	幾何学は数学的なものの見方を学ぶのに良い題材です。古代ギリシア以来、ユークリッド幾何学が中心ですが、この講義ではそれとは少し違った幾何学、射影幾何学について述べます。そこから他の色々な数学が派生する様子も調べます。	数学では特別な用語と厳密な議論で新しい概念が導入されて、とっつきにくく思われる方も多いことでしょう。この講義では「目に見える」形の応用例を用いてその概念の有効性を感じ取りながら、数学的なものの見方を学びます。 とっつきにくさを緩和するための毎回の演習に御参加下さい。	○		○
人と自然と物理学	工	萩原　亮 播磨　弘	後	‘物理学’の言葉から、人と離れたところにある冷たい数式ばかりを連想する人も少なくないだろう。しかし、物理学は、昔から人間が自然現象を粘り強く見つめて、そこに潜む謎や規則を追い求め、苦難の末にその知識を活用できるようになるまでの人の営みの集積として成立してきた学問である。本講義では、こうした物理学の生き生きとした側面を、物理学における考え方の本質的特徴、様々な発見や進歩が人間社会に対して果たしてきた意味と役割などを考察することによって、できるだけ平易に紹介・説明したい。 講義は、実際に物理学を研究手段にしている複数の担当者によって、それぞれ独自の切り口・視点をテーマにして、物理学の各分野を広く見渡す形で進める。	言葉を使って考えることの重要性を知ってほしいと思います。数学力より文章の読み書きの力がものをいう、皆さんにとって意外な物理学の入り口をお見せします。（萩原） 物理が我々の日々の生活のうえでとても身近な存在であること、また生活を豊かにする楽しい分野であることを再認識してほしいと願っています。（播磨）	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
生物学的人間学	医	小野　勝彦 ほか	前	「人間」はさまざまな角度から眺めることが出来る。哲学的、文学的、社会的な観点から、などなど。理科系の視点からでも多様な見方(物理、化学などなど)ができるが、本講義では生物学的視点から人間を還元学的に理解しようとするものである。すべての生物は、細胞→組織→器官（臓器）→個体という階層性を持っている。この普遍性を土台として、生物としての人間の特殊性を見ていく。前半で、普遍性を求めて細胞レベルからの理解（さいぼうがくてき人間学)につとめ、後半では臓器・器官レベルからのアプローチ（かいぼうがくてき人間学)を、特殊性を考えつつみていく。	生身の人間に興味のある人であれば、誰でもわかるように細胞や器官を紹介していく。特に、世間で流布されている細胞や内臓や体に関する「うわさ」の類が本当かどうか、明らかになっている範囲で紹介する。こむつかしいことを考えなくても、30～60兆の細胞から成る自分の体を少しでも知りたい人に受講してもらいたい。ただし、試験は少々こむつかしいかも知れない。	○		
人類生態学	府	熊倉　博雄	後	ヒトの地域集団間にみられる生物学的な多様性は、それぞれの地域集団が曝露されてきた自然環境に対する「適応」によって説明できる。同時にヒトの適応を考える場合には高度に発達した脳機能による「文化」という適応チャンネル、生物学的過程と同時に機能していることも重要である。これらのことを具体例によって検証しながら、現在のヒトがたどってきた進化史について概観したい。	現代人の身体には、進化史上の「先人」たちの生活の痕跡が刻まれている。アフリカローカルの類人猿としての我々の祖先が、地球全土に拡散するなかで、様々な身体特徴を身に着けてきた過程を探るという作業を通じて、現代人さらには近未来人の適応を考えてみてほしい。	○		
意外と知らない植物の世界	機	藤井陽奈子 ほか	後	植物に焦点をあて、文系と理系の複数の教員がリレー講義を行い、文理横断する内容を展開する。文系ではイギリス文学を、理系では植物や植物園に関する知識及び植物と生活の関係性から薬草を射程に入れる。さらには、植物と植物園を活かした地域連携の教育活動について思考し企画する。 また、府立植物園を利用したフィールドワーク的な授業を行い、文理にかかわる生きた教材としての植物に感覚を通じて触れ、植物の生きざまと死にざまを観察する。観察を通じて、人間の生活と植物の関係性を捉えつつ人間の生きざまを思索する。 そうした学習の過程では、共通の植物を介して教師と学生、あるいは学生同士のinteractiveな討論が期待できる。例えば文学では、植物を感性でことばにし、イメージで捉える。それに対して理系では、植物を物理的なサイエンスの物として捉える。文理の視点の違いを理解し、異分野の学生が交流しながら多角的な見方を学生が獲得することを目指す。	【松谷】植物観察の秘訣は、遠くから近くから、四方八方上下左右から、触って嗅いで時には味わうこと。『現場が教科書』、を実感しましょう。 【藤井】植物園での観察と発見を経て、異分野交流しながら学習活動を創造してみませんか。 【後藤】私たちは動物です。植物との関わりを学習し、生物学的多様性を理解しましょう。 【野口】身近にある植物にまつわる物語を知って、世界への扉をまたひとつ開こう。 【佐々木】豊かな言語表現による多彩な描写の様子を存分に味わってもらいたい。言語表現、視覚に依拠した再現、それとも現物、のどれに一番惹かれますか。	○	○	○
科学史	工	笠木　雅史	後	古代から現代までの科学の発展を、実験という観点から学習します。実験は、科学において新たな発見をもたらすとともに、理論を検証、反証する重要な方法論です。歴史上著名な実験を紹介しつつ、それがどのような影響を持ったのかを概観していきます。また、実際に行われた実験以外にも、「思考実験」と呼ばれる科学者が頭のなかで行った実験についても、詳しく見ていきます。授業の後半では心理学、経済学などの従来実験を行わなかった学問に実験という方法がどのように導入され、その結果、どのようにそれらの学問が変化したのかを解説します。	この講義では、「実験」をキーワードに科学の発展の歴史をたどりつつ、実験・思考実験が科学的知識の拡大、理論の確証や反証にどのように貢献したのかを考察します。科学についての知識は特に前提しません。授業中の積極的な発言・質問を歓迎します。	○	○	
科学と思想	工	林　哲介	後	西欧古代以来の歴史において、「科学」の誕生と発展は、哲学・思想の歩みと深く関わっている。哲学・思想の展開が学問や科学を生み、また科学の発展が哲学・思想の新たな展開をもたらす。そして言うまでもなく、両者は産業・経済・社会の動態と密接に関わっている。この授業では古代ギリシャ以来の西欧における哲学・思想と学術の歴史から、代表的な事象を取り上げながら、科学・思想と社会の変転のダイナミクスを検討する。また、日本の近代化や日本人の意識を比較して分析し、我々の現代の課題を考察する。	一方的な講義はなるべくしないことにします。グループをつくって分担し、各回のテーマごとに用意する資料を参考に、説明と質問・討論を行い、これらをまとめて理解を深めるような授業を行いたいと思います。科学・思想の歴史的流れを概観すると現代社会の理解が深まり、ますます勉強したくなるはずです。	○		◎
環境問題と持続可能な社会	工	高月　紘	前	日本ならびに地球規模での環境問題の経過と現状を述べ、求められる持続可能な社会に向けての取り組み、特に私たちのライフスタイルの見直しの必要性について議論を深める。講義の内容としては、公害問題、地球環境問題、環境倫理、生態系の保全、持続可能な社会への取り組みなどを取り上げる。 また、受講生に環境問題を自分たちの問題としての当事者意識を持ってもらうよう促していきたい。	環境問題の全体像を把握した上で、環境問題の背景・原因を理解し、合わせて、自らの日常生活と環境問題のかかわりを知り、可能な限り環境問題を解決するために行動を起こしてほしい。特に、資源・エネルギー問題や生物共生社会への関心を深めてほしい。	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
食と健康の科学	府	東　あかね ほか	前	テーマ：日本人の食と健康 　日本人の食と健康の現状を健康科学、調理学、食品科学等の科学的な観点に加えて、文化的・歴史的観点を含めて、多彩な講師陣によりオムニバス形式で概説する。 　ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食；日本人の伝統的な食文化」の意義を知り、自分自身、わが国及び世界の食と健康の在り方について考察する能力を養うことを目標とする。	今年度より、新たに開講する「和食の文化の科学」プログラムの選択科目の一つです。食保健学科の教員5名に加えて、茶道、和菓子、料理等の専門家を招いて、講義内容を一新します。奮って受講して下さい。	◎		○
キャンパスヘルス概論	工	荒井　宏司	前	健康の意義を学び、肉体的、精神的な自らの健康を創造することをサポートする。 最新の医学に基づき、これから学生生活において、また社会に出てから遭遇するであろう様々な疾病に関する正しい知識を身に付ける。 　誰もが一つずつ持っている「人体」は、すぐ手の届くところにある現代科学のフロンティアである。自らの身体で「科学する心」を学び、巷にあふれる誤った健康情報に対する耐性を身に付けることも目的とする。	これから始まる大学生活を実り多いものにするためには、まず諸君自らが健康であらねばなりません。この講義では、最新の医学に基づき、これから皆さんが出会うであろうさまざまな病気に関する正しい知識を身に付け、巷にあふれるトンデモ健康法に対する耐性を持ってもらおうと思っています。	○	○	○
時間生物学特論	医	八木田和弘	集中・夏	生物は約35億年前に誕生してから地球の自然環境に適応することで繁栄を遂げてきた。その過程で、地球の自転により生ずる昼夜のサイクルを正確に予測するシステムとして、自らの体内に精巧な『時計』を作り上げた。この日周性変化を予測する時計が『体内時計』である。 　バクテリアからヒトを含む哺乳類に至るまで、地球上のほとんどの生物に『体内時計』が備わっており、生体機能の『概日リズム』を発現させている。本集中講義では、体内時計の基礎から疾患との関連まで体系的に議論する。 ※3回生以上（修士課程大学院生を含む。）を対象	『体内時計』ってなんだ？最近テレビや雑誌などでもよく目にするようになった『体内時計』。生命の神秘を感じる話題から、睡眠や食事のタイミングといった身近な話題まで、『からだの時間』を科学します。	○		○

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の自然と森林	府	池田　武文 ほか	前	※ 科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○		
京都の農林業	府	宮崎　猛 ほか	後	※ 科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「京都学」を参照のこと。		○		

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅧ	機	石田　昭人	後	※科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「リベラルアーツ・ゼミナール」を参照のこと。		○		○

■ リベラルアーツ・ゼミナール

【特色】

リベラルアーツ・ゼミナールは、教育目標に掲げられた「C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟すること」に重点を置きます。リベラルアーツ・ゼミナールでは、多様な価値観を持ち志向などが異なる仲間と交流し、様々な問題に関心を持ち、議論する力を高めることを狙いとします。授業は、１クラス30名を上限に、少人数で実施します。

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅠ（感覚で探る問題解決の方法）	機	藤井 陽奈子	前・後	問題を解決するとはどういうことか。その理論を解釈しながら、具体的な日常における身近な問題を取り上げて、解決の糸口を発見し方法を思考する。その際、理論に基づくだけでなく、身体の感覚を使ったより実践的な問題解決の仕方を探る。 また、ゼミナール方式をとることにより、討論を通じて他者との対話の中から解決の方法を導き出すとともにその重要性を知る。	日々の生活の中では、大小を含めた問題を解決しなければならないことがよくあるのではないでしょうか。この授業は、問題を解決するということについて自身で考えるだけでなく、他の分野の、他の大学に所属する学生との対話を通じて解決の糸口を見つけていく過程を、絵や図を使って楽しみ体感するゼミナールです。		○	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅡ（現代社会に学ぶ問う力・書く力）	機	児玉　英明	前	「高校での学び」から「大学での学び」へ転換するにあたって、不安を感じている1回生も多いだろう。本ゼミナールは、そのような1回生を対象として、「論文とはどのような文章なのか」といった初歩から始める。大学での学びは、「聴く」ことや「読む」ことといった受動的な学びに、「問う」ことや「書く」ことといった能動的な学びが伴って、初めて完結する。本ゼミナールでは、「考えるという行為」と「書くという行為」の相関を論じた基礎的な文献を教科書にして、大学で学ぶためのリテラシー能力の向上に努める。 「『問い』を意識しながら読み、『問い』を意識しながら書く」という、すべての科目に共通する初年次教養教育を、少人数のゼミナール形式で展開する。	大学での学びは、自ら「問い」を立てることです。問いを立てるとは、関心を向けている対象を、疑問文の形で書きとめることです。本講義では、自ら立てた問いについてレポートを作成し発表するという、書くという行為に重点を置いたアクティブ・ラーニングを展開します。 パソコンや図書館の使い方も含め、1回生を対象に初歩からレクチャーします。		○	◎
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ（社会科学の学び方）	機	児玉　英明	後	日々の新聞で取り上げられるニュースの中で、何か気になっているテーマがあるだろうか。本ゼミナールは、文系であろうと理系であろうと、時事的な問題への知的好奇心を持っていて、教員や仲間と議論する力を身につけたい学生を対象とする。 社会科学の学び方とは、学生一人ひとりが「人生をいかに生きるべきか」を問うことであり、その生き方を問う問いが「自分がいま生きている社会をどう見るか」という社会認識を問う問いと不可分に結びついていることである。 本ゼミナールでは、古典として定評のある文献を、現代にひきつけて精読する。そして、社会科学のセンスを磨くために2本の映画を鑑賞する。受講生とのディスカッションを通じ、各自の問題意識を尊重しながら、個人研究レポートを作成することが目標である。	大学に入学時、教授に次のように言われました。メートル単位で本を読め！田舎者の私は「メートル単位」という発想に、なぜか興奮を覚えました。1回生は、学問へのいざないとして、新書本をよく読みます。新書本などは、1冊、2冊買って読んでいるようでは不十分で、やはり「棚ごと買って読む」くらいの気迫がなければ、学問の本質には近づけないでしょう。		◎	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅧ（製品の機能から科学を学ぶ）	機	石田　昭人	後	身近な製品の機能を切り口として、その背景となる物理･化学･生物学的な重要事項を理解し、最先端科学に触れることで、知的好奇心とグループ活動能力を育成する講義である。「硬い」、「光る」、「くっつく」、「伸びる」、「通す」、「分ける」、「吸い込む」といった機能を身近な製品や商品から探し出し、自らの手と頭を駆使して対象とする製品や素材の機能、その背景となる最先端科学について調査する。グループワークによる科学技術情報の収集と議論、発表の技法の修練を通して、受講者のポテンシャル向上はもちろん、三大学の学生が共に高め合う関係を創り上げていきたい。 文系理系学部学科を問わず、知識の獲得に対して強い快感を感じることができる意欲的な学生の受講を期待する。2回生以上の受講も歓迎する。	メガネや保温マグカップは何で出来ている?と聞かれて「金属」、「プラスチック」しか出て来ないのでは？「ヒートテック」はどうしてあたたかいの？素材の名前や性質、製品機能の原理を知っていれば安心安全安上がりな生活ができますし、最先端の科学技術に触れることができます。こんな面白いことを放っておく手はありません。さあ、一緒に知の世界を探求しましょう。	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
リベラルアーツ・ゼミナールⅨ（経営哲学）	機	児玉　英明	後	優れた企業家はその時代が直面している課題に解決策を示し、日々の仕事の中で人間性を高めている。本講義は「企業家の生き方に学ぶ教養教育論」である。 前半は、クロネコヤマトの宅急便を開発した小倉昌男『経営学』をテキストにする。宅急便の開発を扱ったケース・スタディを教材にして、経営戦略・経営組織の基礎的な考え方を学習する。また、併行して、背景となる戦後日本経済史もカバーする。後半は、京セラの創業者である稲盛和夫の『アメーバ経営』を取り上げる。京セラでファインセラミックスを開発し、その後、第二電電（DDI）の創設、日本航空（JAL）の再建に携わった稲盛のリーダシップ論、組織論、利他の精神を学んでいく。 ※2回生以上を対象	街を歩いていると、クロネコヤマトの宅急便の集配車を見かけます。変わった形をしているトラックですが、なぜあのような形になったのでしょうか?なぜ、猫のマークなのでしょうか?誰もが知っている宅急便ですが、スタートした1976年1月23日の取扱量は、たったの11個だったそうです。なぜ、宅急便は、これほどまでに成長したのでしょうか? 経済・経営に関心のある理系学生の受講も歓迎します。ゼミナール形式で、気楽に真面目な話をしましょう。	◎		○
リベラルアーツ・ゼミナールⅣ（現代社会と映画製作）	機	長坂　勉	集中・夏	本講義は、商事会社で25年以上にわたり映画製作ビジネスに携わった一社会人による実践的社会人論、体験的映画製作論である。学生時代に感銘を受けた政治思想史家・丸山眞男の著作と山田洋次監督の作品から深く学んだ内容を披露しつつ、学生時代にこそ思索すべき課題についての問題提起を、まず行う。 更に、実社会に出て真摯に考究した社会人としての生き方や規範意識の問題など多面的で実践的なテーマを、両氏の思想を参照しつつ論考する。そして講義後半では、映画「学校」以来、20年間で11本の山田作品に出資参加した経験を基に、同氏の人生の軌跡を辿る「山田洋次論」を、次いで、映画を通じて現代社会を冷徹に凝視し続ける同監督の問題意識を「作品論」として、論述する。	「学生時代だからこそ学ぶべきこと」、「学生時代にしか学べないこと」、この二つの問いに何らかのヒントを受講者に与えることができたら、そして暑い夏の京都で一服の「清涼剤」として講義内容が喜ばれれば、人生の先輩たる一社会人が行う本講座の意義は、ほぼ達せられたに等しい。		◎	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅤ（アメリカと中国はいま）	機	脇田　哲志	集中・冬	21世紀は、「多極化」の時代となるのだろうか?あるいは、アメリカと中国の「G２」の時代となるのだろうか? 格差、環境、民族問題など困難な問題を抱えながら経済・軍事両面で急膨張する中国と、覇権の衰退と国内の分裂に悩む既存の超大国アメリカ。GDPで一位と二位を占める2つの大国は、太平洋を挟んで警戒と反発を繰り返しながら経済の相互依存をますます深めつつある。この講義では、政治体制が全く異なる現代のアメリカと中国がそれぞれ抱える国内的な諸課題、そしてそれらの要素が、両国関係のあり方にどのようにインパクトを与えていくかを考えていきたい。 特に今年度は、来年秋に迫るアメリカ大統領選挙に焦点を絞り、ポスト・オバマをめぐる戦いを読み解くことで、アメリカ社会を深く知る機会としたい。そして、大統領選挙が、対中関係をはじめとするアメリカの外交、そして国際情勢全般にどう影響していくかも検討する。 受講者によるディスカッションも交え、ともに考えながら、理解を深めていきたい。	担当教官は、NHKの中国総局長とアメリカ総局長を経験した国際ジャーナリストです。これからグローバル社会で生きていこうとするみなさんが、いま世界で動いている出来事をどう把握し理解していけばいいか、という感覚を身につけられるように、みなさんと論議を重ねながら考えていきたいと思います。		○	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅥ（現代イスラーム世界の文化と社会）	機	田村 うらら	集中・冬	世界三大宗教の中でイスラーム教は、信者数を着々と伸ばし存在感を強めており、日本でも近年特に東南アジア出身者などのムスリムと直接接触する機会が増加している。しかし元々日本人にとって馴染みの薄い宗教であるうえ、9.11以降の偏向した欧米メディアによる情報も加わり、イスラームに対する誤解は強い。 本講義では、ごく基礎的なイスラームに関する知識に加え、トルコ等中東諸国を中心に現代イスラーム世界の文化と社会について学ぶ。	今後、ムスリムとのつきあいの機会は必ず増えます。イスラームや異文化理解に興味のある人だけでなく、専門から遠く事情に疎い学生諸氏の積極的な受講を歓迎します。学部時代こそ、多角的な視点に親しみ、解が一つでない諸問題の議論に習熟する好機です。講義とディスカッションを通して世界を見る力を鍛えてみませんか。		◎	○
リベラルアーツ・ゼミナールⅦ（感性の実践哲学）	機	桑子　敏雄	集中・夏	環境からの刺激を受け止め、解釈し、さらに環境に創造的に作用する能力を「感性」と捉えることができるとすれば、京都という地域空間の構造と履歴には、この地に生きた人々の感性的経験が蓄積されていると考えることができる。本講義では、空間の構造・空間の履歴・人びとの関心･懸念を総合的に捉える「ふるさと見分け」の方法によって、京都の地域空間を実践的に捉え、その感性的価値を考えてみたい。	日ごろ見馴れた風景のなかに自己の存在と自己の生が営まれる環境との関係を見出すための知的なトレーニングです。学生諸君には楽しみながら、新たな知の発見を経験していただきたいと思っています。		○	○

■ 京都学

【特色】

「京都で学びたい」、「京都を学びたい」と思い、伝統のある三大学への進学を希望した学生も多いことでしょう。京都三大学教養教育研究・推進機構では、京都の地域的、歴史的、文化的特色を生かした、12科目の「京都学」を開講します。三大学にまたがる学問分野の広さと、各大学の専門性の強みを生かした多様な京都学が提供されます。

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の歴史Ⅰ	府	櫛木　謙周 ほか	前	原始・古代から中世に至る京都の歴史を概観し、都がこの地に置かれるまでと、その後の展開過程について述べる。 取り上げる時代は現代からは遠いけれども、今日の京都が形成される基盤を考えることは重要である。京都盆地がどのような地域的特色をもっているのか、そこがいかにして首都となったか、あるいは、そこで展開した政治や社会、文化の特徴はどのようなものか、具体的な事例をもとに論じる。 3人の教員が歴史学（文献史学）や考古学の立場からリレー式で担当する。	この授業では、中世までの京都に関する諸事象のなかから、重要と思われる事柄の正確な理解をめざしますが、個別的知識の寄せ集めに終わらせないようにします。 それぞれの時代の京都の歴史的特徴をどのように捉えればよいか、一人一人が考えてほしいと思います。	○	○	
京都の歴史Ⅱ	府	小林　啓治 ほか	後	近世以降、現代に至るまでの京都について、歴史的・地理的観点から概観する。江戸幕府の成立以降、京都は政治的中心ではなくなるが、国家権力や権威から切り離された都市になったわけではない。明治以降は、天皇制国家の権威の源泉として再建されていく。 それぞれの時代が都市京都をどのように特徴づけたのか、逆に言うと、都市京都はどのような役割をになったのかについて、具体的な事例をもとに論じる。 近代以降は世界史的な観点から京都を位置づけることも重視する。	近世から現代にいたる京都の歴史をまんべんなく扱うのではなく、対象となる時代の京都を規定している要素にポイントを絞って解説していきます。時の権力・権威と都市京都がどのように結びついていたのか、といった観点から考察を深めてほしいと思います。	○	○	
京都の文学Ⅰ	府	藤原　英城	前	元禄期前後の京都の出版界の状況を検証する。具体的には、京都における本屋仲間の成立過程を通して、当時の出版界の抱えていた諸問題を考察する。 本講義では、当時の出版界の内情を暴露的に描いた都の錦の浮世草子『元禄大平記』を読み進めながら、そこに現わされた出版界の状況や浮世草子作者がプロデュースされていくプロセスを検証するが、その際、京都の本屋仲間の記録である『済帳標目』を併読しながら、具体的な本屋間の紛議の経緯やその対処のあり方を確認する。	受講生は、文学の商品化や作者がプロデュースされていく過程を当時の文学作品や資料の読解を通して明らかにすることによって、課題を実証的に検証する基本的な態度や手続きを学ぶことができる。	○	○	
京都の文学Ⅱ	府	藤原　英城	後	元禄期前後の上方文学の代表的な作品を「京都の文学」として解読する。作品の選択に関しては、今日の文学史的評価高い作品に偏ることなく、当時の人々に人気の高かった、いわゆるベストセラー本を基準に読み進める。 本講義では浮世草子の出発点でもある『好色一代男』と京都との関係性を中心に好色本の特徴およびベストセラーとなった背景やその秘密について考察する。その際、ベストセラーの商品性という観点から、挿絵のもつ意味やモノとしての本のあり方などについても考える。また、重宝記のいくつかを紹介しながら、好色本との関係性についても言及する。	受講生は、当時のベストセラーの読解を通し、現代との文化的価値観の相違のみならず、ジャンルの融合など現代にも共通する現象を検証し、課題に対する複合的・相対的アプローチの方法を学ぶことができる。	○	○	
京の意匠	工	並木　誠士	後	明治維新以降、京都の美術工芸界、伝統産業界は、さまざまなかたちで近代化に直面する。そして、美術学校の設置、博覧会の開催、図案教育などにより京都は近代化に対応しようとする。近代の京都を、美術工芸や意匠の側面からできるだけ事例、作例に即して考えてみたい。	自分たちが学びの場として選んだ京都というまちとそのさまざまな活動についての知識を身につけてほしい。京都というと、古いお寺や神社のイメージが強いが、明治時代以降の近代にも多くの魅力的な「意匠」が生み出されているので、そのような近代の京都に触れる機会になればと思う。	○	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都学事始 ー近代京都と三大学ー	機	宗田　好史 ほか	前	京都と深い関わりをもつ歴史ある三つの大学で学ぶ学生さんのために、三大学が誕生した京都の近代を知り、近代化を進める上で三大学が果たした役割を振返ります。これら三大学の誕生と共に、京都では近代教育制度が確立し、京都の産業が成長・発展してきました。この過程を学ぶことで、皆さんに身近な様々な町の記憶を再確認してもらいます。そして、京都近代の歴史を知る中で、現代社会における大学の役割を考え、学生さん、教員と京都の地域社会の関わりを考えます。三大学は、京都の産業、経済だけでなく、医療、教育、福祉に深く関わることで、京都の企業や施設、行政機関を発展させてきました。それぞれの大学の歴史と京都の街の近代史を学ぶことから、皆さんが暮らす京都の未来を展望してもらうようにお話しします。その中に、皆さん方自身の将来像を見つけ出してください。 三つの大学と京都府総合資料館から講師の先生方が来られ、テーマに沿って順番に講義していきます。	京都の伝統ある三大学で学ぶ皆さんが、母校に誇りを持つと同時に、各地で活躍する数多くの先輩諸氏を知り、その功績を知るとともに、皆さん自身も先輩に続き、地域社会に貢献しようという意欲を感じてもらえる講義にしたいと思います。			○
京の産業技術史	工	山田 由希代	前	京都にとって大きな転換期となった「近代」に注目し、染織、陶芸、絵画などの「美術・工芸」がどのような変容をとげて現代にいたっているのかについて、産業との関わりをふまえて講義する。	日本の文化や生活に深くかかわってきた美術・工芸は、伝統産業として長い歴史ある京都の独特な文化を支えてきたといえます。いまも私たちの暮らしの様々な場面に見ることのできる伝統産業を守り続けた人々の取り組みをふりかえることは、現代の産業振興に役立つ要素の発見にもつながると思われます。		○	
現代京都論	府	宗田　好史	前	京都のまちづくりを知り、考えることを目的に、①町家を通じて進む市民、事業者の活動、②自然と歴史的景観を保全する政策の今日的意味とその問題点、③伝統文化の問題として伝統産業と生活文化、伝統芸能の問題、④新たな展開を見せる京都観光について、その観光客の動向、観光産業の状況などをとりあげる。 京都で学ぶ学生さんが、身近なまちかどで見聞きしたことの背景を知り、まちづくりに広い関心をもつことを目指す。	今まさに京都の街で起こっている最新の情報をもとに、まちづくりの現状から京都の現代社会を探る講義です。 様々な調査や統計をもとに、街と人々の動きを探りつつ考える授業です。		○	
医史学	医	八木　聖弥	前	京都における医療の歴史を系統的に講義する。内容は医学理論や技術だけでなく、制度や施設、思想的背景など周辺領域も含む。われわれが疾病に対してどのように対処してきたかをたどることによって、文化としての医の本質を考える。	疾病との闘いは、人類にとって永遠のテーマです。最先端の医療も、過去の積み重ねのうえに立ちます。医療の歴史から未来への指針を学びます。	◎	○	
京都の自然と森林	府	池田　武文 ほか	前	京都府の自然の構成要素である地形や気候などについて解説し、現存植生との関係や森林の特徴、京都の代表的な植生、植生の変遷や人との関わりによる歴史的な変遷などについて解説する。 さらに、病虫害や鳥獣害、災害などによる森林の衰退などについて解説し、京都府の自然がかかえている問題を考える。	京都の究極の自然は森林です。森林のダイナミックな営みを知り、京都の本当の自然を理解しましょう。	○		
京都の農林業	府	宮崎　猛ほか	後	わが国の農林業の概要とその中における京都の農林業の特徴とについて、リレー方式で概説する。 一千年以上もの間、都であった歴史的古都ゆえに、伝統的に蓄積されてきた技術と文化に基づく農林業と、新しい技術と生産方式の下で再編成される現代の農林業との2つの側面を明らかにして、長期的視点でわが国と京都の農林業を見つめ直すための教養を身につける講義である。	7人の教員が担当する授業であり、全体像を理解するためには、復習が必要である。 成績評価は、各教員による小テストと出席状況に基づき行われる。	○		
英語で京都	機	金澤　哲	後	概要：学問的な視点から「京都」について考え、英語で発信する。 目標： (1)「京都」とは何かについて、学問的に考えてみる。 (2) 他者の目から見た京都のありかたについて意識する。 (3) 聞き手を意識したナレーションやレトリックを使えるようになる。 ※3回生以上を対象	「京都」とはなにか、観光イメージのレベルを超えて、考えてみたいと思います。その際、外国からの視点は大きな手がかりになるはずです。また、すでに学んできた専門教育の考え方も生かしていきましょう。それぞれの考える「京都」について、英語で発信してみませんか。		◎	○

３大学連携教養教育単位互換科目について

京都三大学では、教養教育共同化科目とは別に、教養教育に関する幅広い科目が履修できるよう、３大学が連携して平成19年度から教養教育科目に係る単位互換制度を実施しています。教養教育共同化科目とは制度が異なりますので、下記事項に留意の上、受講してください。不明な点がありましたら、所属大学の窓口でお尋ねください。

1　受講ができる単位互換科目

22頁に記載のとおりです。単位互換科目については、科目を提供する大学の配当年次に関わりなく履修することができます。なお、講義概要（シラバス）は、３大学Ｗｅｂシステム（URL：https://syllabus-web.kpu.ac.jp/syllabus_compatible/、各大学ＨＰからもリンク）で参照できます。

2　単位

修得した場合は、一定の範囲内（各大学・各学科等により異なります）で卒業に必要な単位として認定されます。

3　特別聴講学生

受講が許可された場合は、受講を希望する科目を提供する大学の「特別聴講学生」となり、「特別聴講学生証」が交付されます。

4　授業日、授業時間

受講を希望する科目を提供する大学の学年暦、時間割にしたがって開講されます。共同化科目のように統一した授業日、時間割は設定されていません。

5　開講場所

科目を提供する大学で開講されます。受講を希望する場合には、前後に履修する授業に支障が出ないよう、大学間の移動に要する時間等を十分考慮してください。

6　受講のための出願手続き

前期科目、後期科目の両方とも、4月3日（金）～10日（金）の期間内にＷｅｂシステム又は所属大学の窓口での出願が必要です。所属大学の配布資料又は窓口で確認の上、必要な手続を行ってください。

7　受講許可

出願後、科目提供大学で選考が行われます。選考結果（許可・不許可）は、所属大学を通じて出願者に通知されます。

平成27年度 3大学連携教養教育単位互換科目一覧

京都工芸繊維大学（11科目）　開講場所：工繊大キャンパス

科目番号	授　業　科　目	担当教員名	単位数	配当年次	開講曜日・時限	備考
10160086	京のサスティナブルデザイン	久保雅義・(市原増夫)・(益田文和)・(水間健介)	2	2年次（前）	隔週土曜日開講	初回ガイダンスは 4/10（金）17:50～19:20 （場所：3号館1階0311講義室）
10160007	京のまち	石田潤一郎・小野芳朗・中川理	2	3年次（後）	木曜日　5限	
10160011	情報セキュリティと情報倫理	澁谷　雄・桝田秀夫	2	1年次（後）	金曜日　5限	
10160021	産学関係論	稲岡美恵子	2	3年次（後）	金曜日　2限	
10160125	京の知恵 伝統産業の先進的ものづくり	稲岡美恵子	2	2年次（後）	火曜日　5限	
10161074	地球環境論a	山田　悦	2	1年次（前）	水曜日　5限	
10161075	地球環境論b	岩崎　仁	2	1年次（前）	水曜日　5限	
10160016	テクノロジー論	秋富克哉	2	2年次（後）	木曜日　2限	
10160114	倫理学	秋富克哉	2	2年次（前）	火曜日　6限	
10161053	健康スポーツ科学b	芳田哲也	2	2年次（後）	火曜日　5限	
10160055	生体行動科学	野村照夫・来田宣幸	2	2年次（前）	金曜日　1限	

京都府立医科大学（3科目）　開講場所：下表左欄のとおり

開講学科（学舎）	授　業　科　目	担当教員名	単位数	配当年次	開講曜日・時限	備考
看護学科（看護学学舎）	情報科学 ―看護研究におけるパソコンの活用法―	浅野弘明	2	1年次（前）	金曜日　3限	
（看護学学舎）	音楽	山上友佳子	2	1年次（前）	水曜日　4限	
（共同化施設）	生命有機化学	鈴木孝禎　他	2	1年次（後）	金曜日3･4･5限	

京都府立大学（27科目）　開講場所：府立大キャンパス（原則として共同化施設）

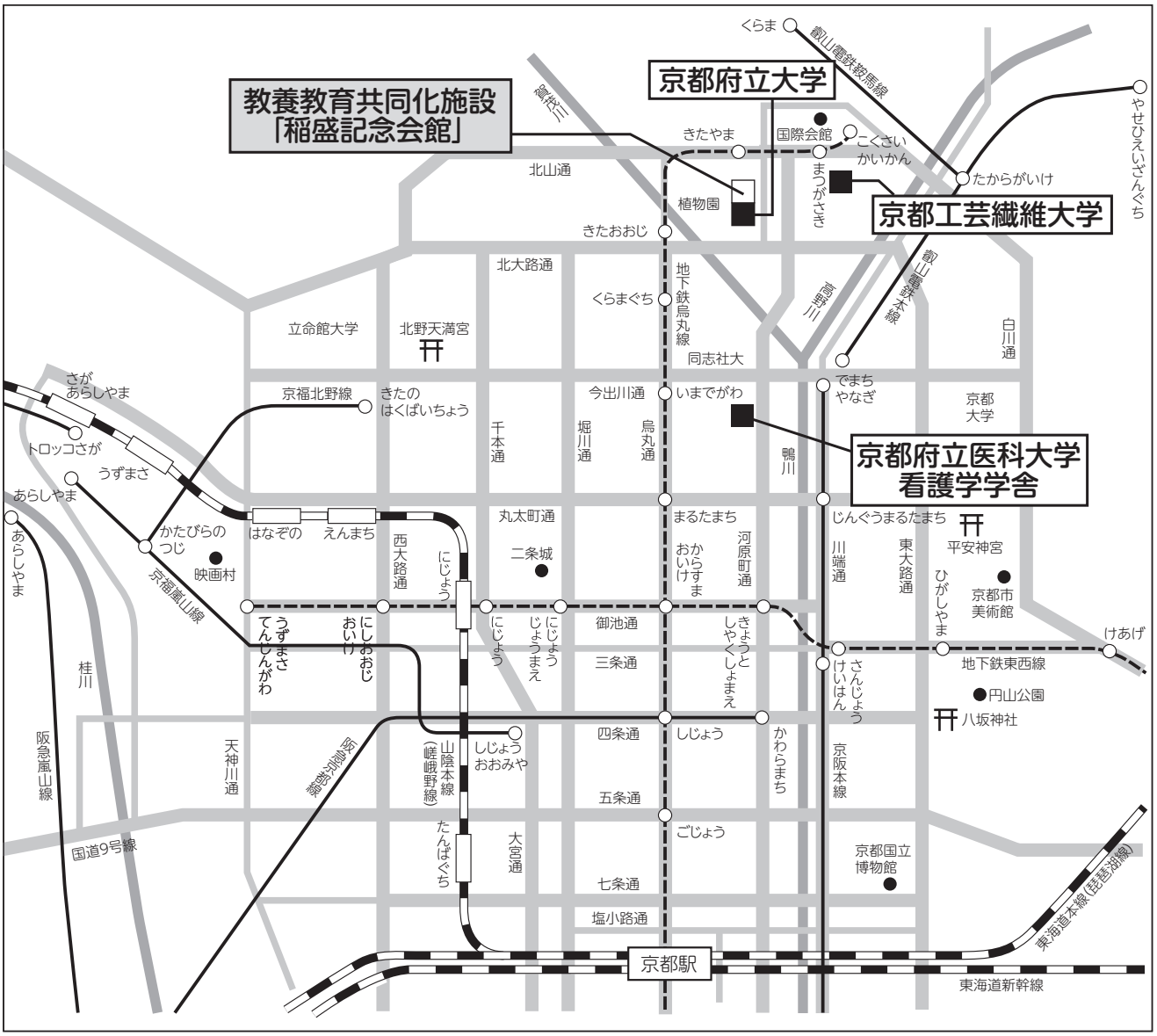
授業コード	授　業　科　目	担当教員名	単位数	配当年次	開講曜日・時限	備考
6110152	スポーツ科学	青井渉	2	1年次（後）	火曜日　4限	
6110250	心の健康	村上貴栄	2	1年次（前）	（前期集中）	
6110260	おいしさの科学とデザイン	川崎寛也　他	2	1年次（後）	金曜日　5限	一部後期集中 (10/3,11/21,12/19)
6120010	日本の文学と文化Ⅰ	安達敬子	2	2年次（前）	火曜日　5限	
6120020	日本の文学と文化Ⅱ	母利司朗	2	2年次（後）	火曜日　5限	
6120040	ヨーロッパの歴史と文化	川分圭子	2	1年次（後）	水曜日　5限	
6120050	哲学入門	岩崎豪人	2	2年次（前）	月曜日　2限	
6120060	現代科学と倫理	岩崎豪人	2	1年次（後）	月曜日　2限	
6120070	人間と建築	宗田好史　他	2	2年次（後）	火曜日　5限	
6120080	人間生物学	椎名　隆	2	2年次（後）	火曜日　5限	
6120140	人権論Ⅰ	上掛利博　他	2	2年次（前）	月曜日　1限	
6120150	人権論Ⅱ	佐藤仁人　他	2	2年次（後）	月曜日　1限	
6120170	現代社会と法	松田貴文	2	2年次（前）	火曜日　4限	
6120180	日本国憲法	松村歌子	2	2年次（前）	（前期集中）	
6120320	物理学Ⅱ	春山洋一	2	1年次（後）	木曜日　2限	
6120330	化学Ⅰ	斧田宏明	2	1年次（前）	木曜日　2限	
6120340	化学Ⅱ	ﾘｿﾄｩﾙｵﾄ正美	2	1年次（後）	火曜日　4限	
6120350	生物学Ⅰ	山下博史	2	1年次（前）	水曜日　1限	
6120360	生物学Ⅱ	山下博史	2	1年次（後）	金曜日　1限	
6120370	数学Ⅰ	岩﨑雅史	2	1年次（前）	水曜日　5限	
6120380	数学Ⅱ	岩﨑雅史	2	1年次（後）	火曜日　4限	
6120390	情報の科学	吉冨康成	2	1年次（後）	火曜日　4限	
6120400	現代の環境問題	春山洋一　他	2	2年次（後）	木曜日　3限	
6120460	環境共生論	桂明宏　他	2	1年次（後）	月曜日　1限	
6120470	世界の食文化と和食	日比野光敏	2	1年次（前）	金曜日　5限	
6120480	茶の湯と伝統文化	冨士田恭二　他	2	1年次（後）	木曜日4・5限	
6120490	歳時学概論	日比野光敏	2	1年次（後）	金曜日　4限	

注１）配当年次の（前）、（後）は、それぞれ開設される学期が前期か後期かを示す。
注２）単位互換にあっては、配当年次に関わりなく履修することができるものとする。履修登録時の参考とするために提供大学の配当年次を掲載した。

共同化科目開講場所について

共同化科目は、原則として京都府立大学下鴨キャンパス敷地内の**教養教育共同化施設「稲盛記念会館」**で開講されます。

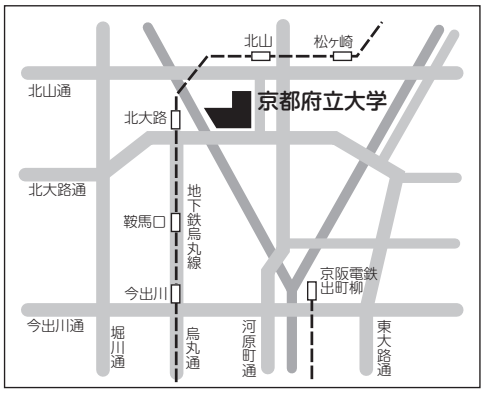
受講者は、次ページ以降に掲載されている地図や交通手段などを参考にして、時間に余裕をもって移動できるよう心掛けて下さい。



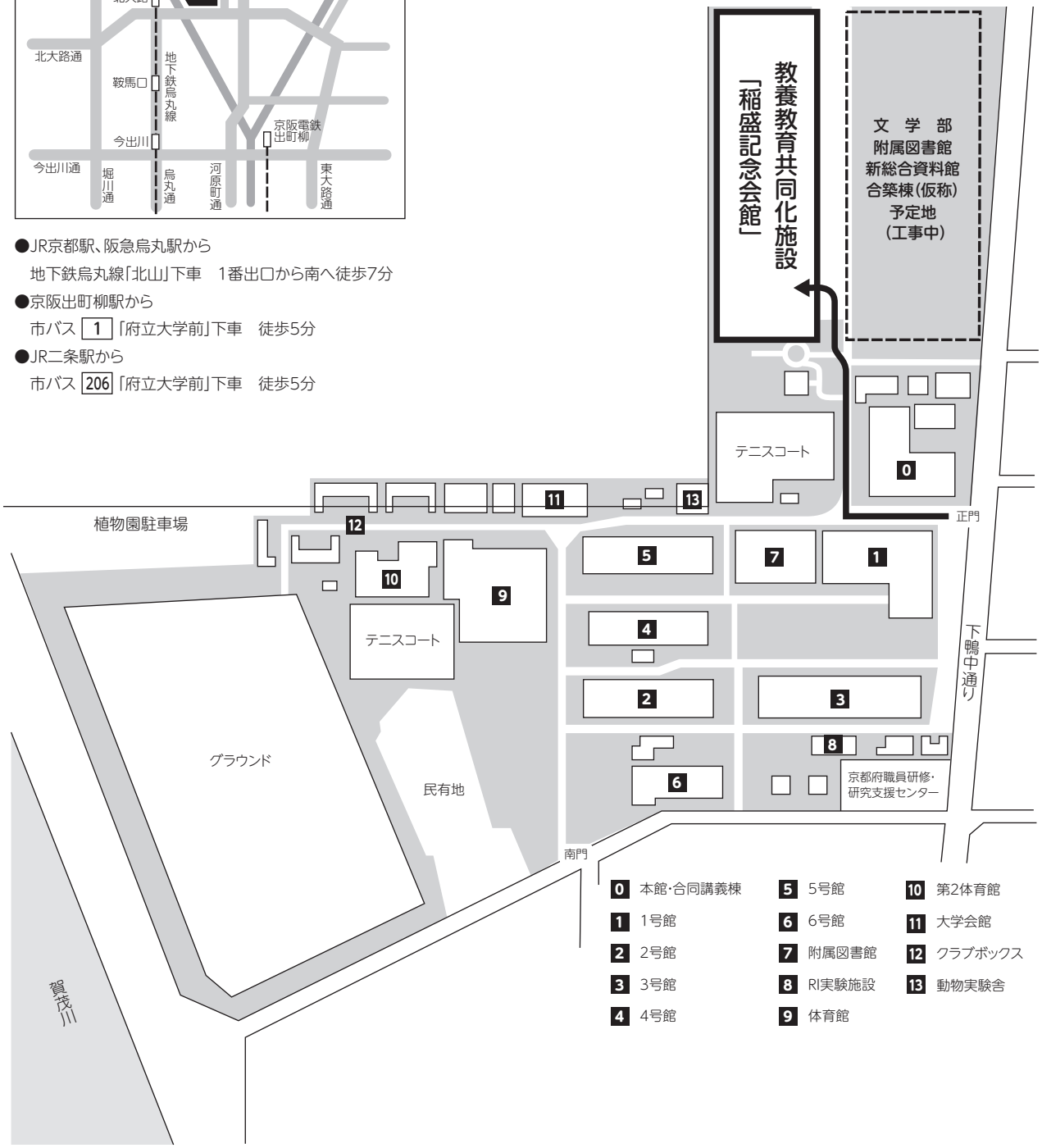
教養教育共同化施設「稲盛記念会館」

京都府立大学下鴨キャンパス
京都市左京区下鴨半木町１番５

京都府立大学下鴨キャンパス

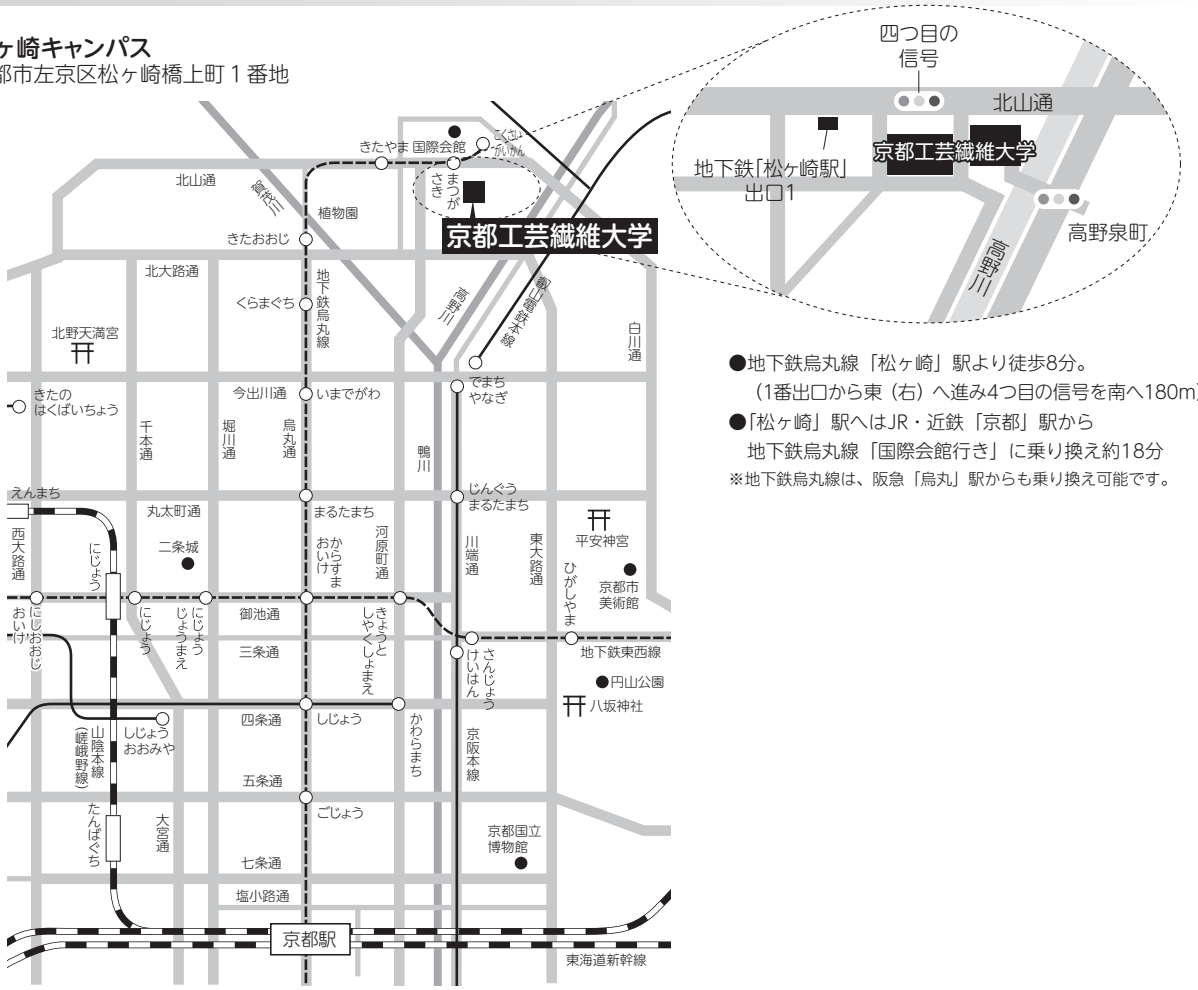


●JR京都駅、阪急烏丸駅から
地下鉄烏丸線「北山」下車　1番出口から南へ徒歩7分
●京阪出町柳駅から
市バス 1 「府立大学前」下車　徒歩5分
●JR二条駅から
市バス 206 「府立大学前」下車　徒歩5分



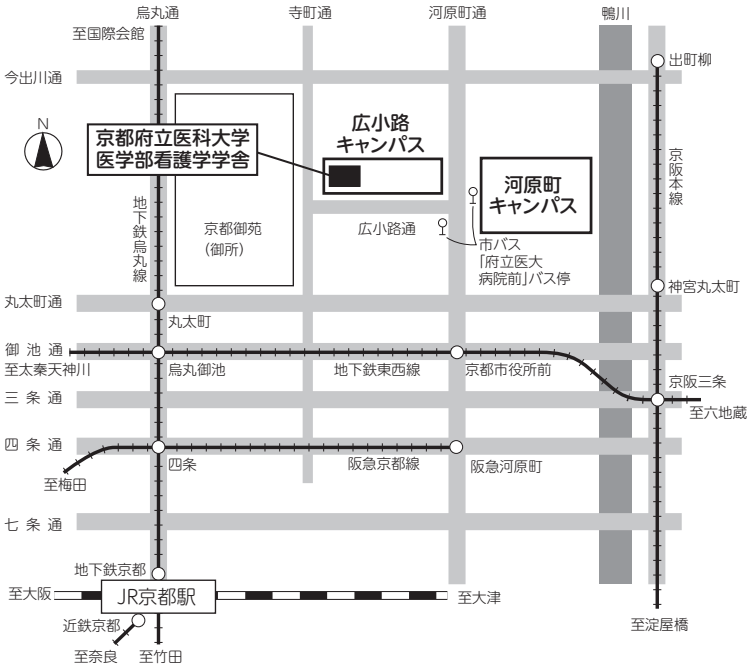
京都工芸繊維大学

松ヶ崎キャンパス
京都市左京区松ヶ崎橋上町１番地



●地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅より徒歩8分。
（1番出口から東（右）へ進み4つ目の信号を南へ180m）
●「松ヶ崎」駅へはJR・近鉄「京都」駅から
地下鉄烏丸線「国際会館行き」に乗り換え約18分
※地下鉄烏丸線は、阪急「烏丸」駅からも乗り換え可能です。

京都府立医科大学　看護学学舎



河原町キャンパス
京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465

広小路キャンパス(看護学学舎)
京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町410(上京区広小路通河原町西入る)

JR京都駅(正面)から	市バス4,17,205系統	「府立医大病院前」下車	河原町・広小路キャンパス
阪急電鉄河原町駅から	市バス3,4,17,205系統	「府立医大病院前」下車	
京阪電鉄三条駅から	市バス37,59系統 京都バス23,43系統	「府立医大病院前」下車	
京阪電鉄神宮丸太町駅から	徒歩10分		
京阪電鉄出町柳駅から	徒歩15分		

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」の概要

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」は、新たな文化・学術・環境を発信する「北山文化環境ゾーン」整備のメイン施設の一つとして、平成24年10月に建設着工し、平成26年９月に竣工式を迎えました。それに伴い、昨年度後期からこの「稲盛記念会館」での授業を開始しました。

今後、この施設は「時代が求める新たな教養教育」の拠点として、三大学の学生が一堂に会して学び、教職員や府民の皆さまとの多様な交流を支える施設として期待されています。

この施設の建設につきましては、その趣旨に御賛同いただきました京セラ株式会社名誉会長稲盛和夫様から、京セラ株式会社の創業の地でもある京都府に対して多額の御寄附をいただきました。

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」

建物の概要

■**所 在 地**／京都市左京区下鴨半木町１番５
■**工事期間**／平成24 ～ 26年度
■**総工事費**／約28億円
■**主な整備内容**

■**構造・規模**／鉄筋コンクリート造り　陸屋根
地下１階　地上３階建て
延床面積　9,088.73㎡

○三大学学生が一緒に学ぶ豊かな学修空間の創出

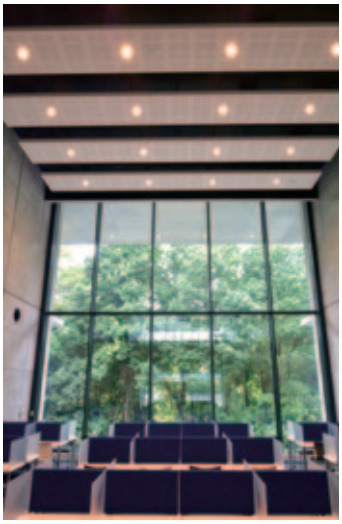
・豊富な教養教育が提供できる講義施設の整備
マスプロ教育を避けるため200人規模を最大に17教室を整備
（同時に最大1,700人程度収容可）
・京都府立医科大学教養教育施設（花園学舎）の移転
（研究室、実習室など）
・多様な学修環境の充実
視聴覚室（100人程度）、コンピューター室（80人程度）、
研究ゼミ室（各10人程度：３室）
・自学自修環境の充実
自習室（60人、30人：２室）

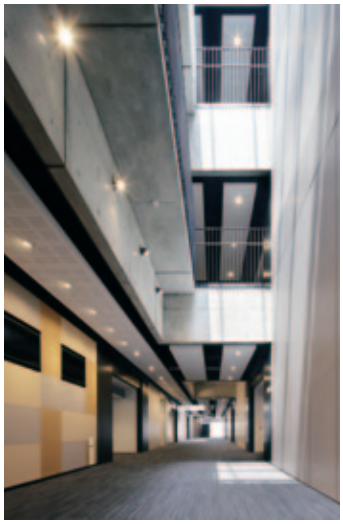
○府民等との交流スペースの整備

・三大学の学生・教員間の交流の場であり、かつ、府民の皆さまが気軽に利用できるレストラン
・稲盛記念展示室

○京都議定書の街にふさわしい環境に配慮した建物、ゆとりある空間

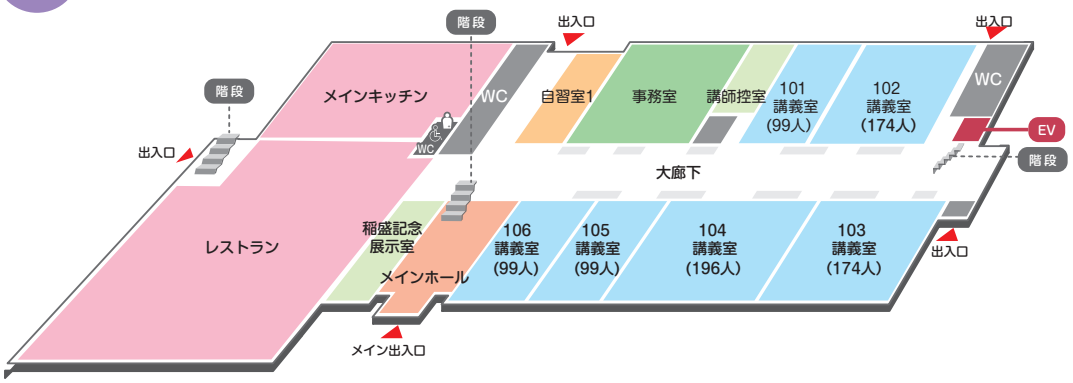
・エコボイド（吹き抜け空間を各階の自然換気、自然採光に利用）
・雨水・井水の雑用水利用
・太陽光パネル設置
・ゆとりある廊下
・大型ガラス窓による植物園の緑や自然採光を活かしたリフレッシュ空間の創出





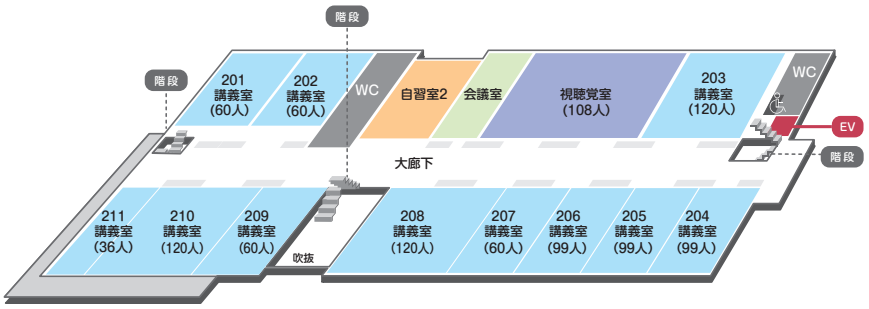
■ 建物ゾーニング

1階 府民利用・学生交流フロア



- 講義室６室
  - ・１９６人：１室
  - ・１７４人：２室
  - ・　９９人：３室
- 自習室
- 稲盛記念展示室
- レストラン
- 事務室

2階 学生講義室フロア



- 講義室１１室
  - ・１２０人：３室
  - ・　９９人：３室
  - ・　６０人：４室
  - ・　３６人：１室
- 自習室
- 視聴覚室

3階 研究等フロア

医大研究室、化学実習室、生物学実習室、物理学実習室、実験準備室、コンピューター室、研究ゼミ室等

平成27年度

京都三大学 教養教育共同化科目
受講案内

発行：京都三大学教養教育研究・推進機構
〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町1番５
教養教育共同化施設「稲盛記念会館」内
TEL (075)703-4925　FAX (075)703-4979
URL　http://kyoto3univ.jp/

※この受講案内は、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の補助金を活用して作成しています。

平成27年度　共同化科目開講時間割

前　期

提供大学等		機　構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学
曜日・コース ＼ 開講場所		共同化施設（稲盛記念会館）			
月曜	3 12:50～14:20	リベラルアーツ・ゼミナールⅡa（現代社会に学ぶ問う力・書く力）（児玉英明）	公共哲学（小久見祥恵）	京都の歴史Ⅰ（櫛木謙周ほか）	医史学（八木聖弥）
			現代教育論（塩屋葉子）	現代の政治（依田 博）	
			エネルギー科学（林 哲介）		
			生物学概論Ⅰ（遠藤泰久）	現代京都論（宗田好史）	
			環境問題と持続可能な社会（高月 紘）	物理学Ⅰ（春山洋一）	
	4 14:30～16:00	リベラルアーツ・ゼミナールⅠa（感覚で探る問題解決の方法）（藤井陽奈子）	日本近現代文学（高木 彬）	京都の文学Ⅰ（藤原英城）	日本文学Ⅰ（早川久美子）
			美と芸術（三木順子）		
			化学概論Ⅰ（三木定雄）	社会学Ⅰ（玉井眞理子）	人文地理学Ⅰ（阿部美香）
			人と自然と数学α（大倉弘之）		
			キャンパスヘルス概論（荒井宏司）	食と健康の科学（東あかねほか）	生物学的人間学（小野勝彦ほか）
	5 16:10～17:40	京都学事始―近代京都と三大学―（宗田好史ほか）	比較宗教学（若見理江）	アジアの歴史と文化（向井佑介）	
			日本史（鬼頭尚義）	現代日本と経済（熊澤大輔）	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅡb（現代社会に学ぶ問う力・書く力）（児玉英明）	西洋文学論（山下大吾）	現代社会とジェンダー（小沢修司ほか）	
			心理学（大谷芳夫）		
			京の産業技術史（山田由希代）	京都の自然と森林（池田武文ほか）	

後　期

提供大学等		機　構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学
曜日・コース ＼ 開講場所		共同化施設（稲盛記念会館）			
月曜	3 12:50～14:20	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ（社会科学の学び方）（児玉英明）	哲学（伊藤 徹）	京都の歴史Ⅱ（小林啓治ほか）	文芸創作論（藤田佳信）
		意外と知らない植物の世界（藤井陽奈子、松谷茂ほか）	東西文化交流史（オーガスティン・ジョナサン）		
			京の意匠（並木誠士）		
		リベラルアーツ・ゼミナールⅧ（製品の機能から科学を学ぶ）（石田昭人）	文化社会学（工藤保則）	国際政治（依田 博）	
			生物学概論Ⅱ（遠藤泰久）		
			科学史（笠木雅史）		
	4 14:30～16:00	リベラルアーツ・ゼミナールⅠb（感覚で探る問題解決の方法）（藤井陽奈子）	人と自然と数学β（塚本千秋）	京都の文学Ⅱ（藤原英城）	宗教と文化（田中純子）
				社会学Ⅱ（玉井眞理子）	ラテン語（松本加奈子）
			人と自然と物理学（萩原 亮、播磨 弘）	現代社会と心（石田正浩）	日本文学Ⅱ（早川久美子）
				宇宙と地球の科学（松村一男）	人文地理学Ⅱ（阿部美香）
	5 16:10～17:40	英語で京都（※3回生以上）（金澤 哲）	西洋文化論（山下太郎）	生活と経済（小沢修司）	
			政治学（竹本知行）		
			経済学入門（人見光太郎）	人類生態学（熊倉博雄）	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅨ（経営哲学）（※2回生以上）（児玉英明）	人権教育（杉本弘幸）		
			化学概論Ⅱ（石川洋一）		
			地球の科学（酒井 敏）	京都の農林業（宮崎 猛ほか）	
			科学と思想（林 哲介）		

集中開講

夏　期	リベラルアーツ・ゼミナールⅦ（感性の実践哲学）（桑子敏雄）　（9月1日～2日　各2～5コース）	機構
	発達心理学（小川恭子）　（9月7日～9日　各1～5コース）	医大
	リベラルアーツ・ゼミナールⅣ（現代社会と映画製作）（長坂 勉）　（8月27～28日、9月3～4日　各3・4コース）	機構
	生命科学講話（塚本康浩ほか）　（8月24日～26日　各1～5コース）	府大
	時間生物学特論（※3回生以上（修士課程大学院生を含む。））（八木田和弘）　（9月3日～4日　各1～4コース）	医大
冬　期	リベラルアーツ・ゼミナールⅥ（現代イスラーム世界の文化と社会）（田村うらら）（12月27日　2～5コース、28日　1～4コース）	機構
	リベラルアーツ・ゼミナールⅤ（アメリカと中国はいま）（脇田哲志）（12月25日　1～4コース、26日　2～5コース）	機構